

岡山市人口ビジョン

(案)

平成27年10月
岡山市

目 次

はじめに.....	1
I 岡山市の人口の現状分析	2
1. 国及び県の人口動向.....	2
(1) 我が国の人口推移と長期的な見通し.....	2
(2) 岡山県の人口推移と将来の見通し	2
2. 岡山市の人口分析	3
(1) 人口推移と将来推計.....	3
① これまでの人口推移.....	3
② 将来推計	4
(2) 年齢別人口の現状と変化	5
(3) 人口動態.....	6
① 自然動態.....	6
② 社会動態	9
II 岡山市の人口の将来展望	12
1. 目指すべき将来の方向の基礎となる市民の意識等.....	12
(1) 結婚・出産・子育てに関する市民意識	12
(2) 移住・定住に関する意識	13
2. 目指すべき将来の方向	14
3. 本市人口の将来展望.....	15
(1) 将来人口推計	15
① 推計パターン	15
② 推計結果.....	15
③ 人口の将来展望.....	16
(2) 将来の年齢3区分別人口推計	16
① 年齢3区分別人口比率.....	16
② 年齢3区分別人口	17

はじめに

我が国は、2008（平成 20）年をピークに人口減少社会に突入しており、今後、さらに人口は大きく減少していくことが見込まれている。

国においては、少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生」の取組が進められている。

岡山市では、総人口はこれまで一貫して増加しているが、将来見込まれる人口減少が地域に与える影響は少なくない。生産年齢人口の減少に伴う、労働や地域活動の担い手不足による地域経済の縮小や地域コミュニティの機能低下等が懸念される。このため、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立し、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すことが求められている。

については、岡山市における「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定するにあたっての前提として、人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と 2060 年までの人口の将来展望を提示するものである。

I 岡山市の人口の現状分析

1. 国及び県の人口動向

(1) 我が国の人口推移と長期的な見通し

我が国の人口は、2008（平成 20）年の 1 億 2,808 万人でピークを迎え、日本の総人口は 2048 年に 1 億人、2100 年には 5 千万人を割り込むまでに減少することが見込まれている。

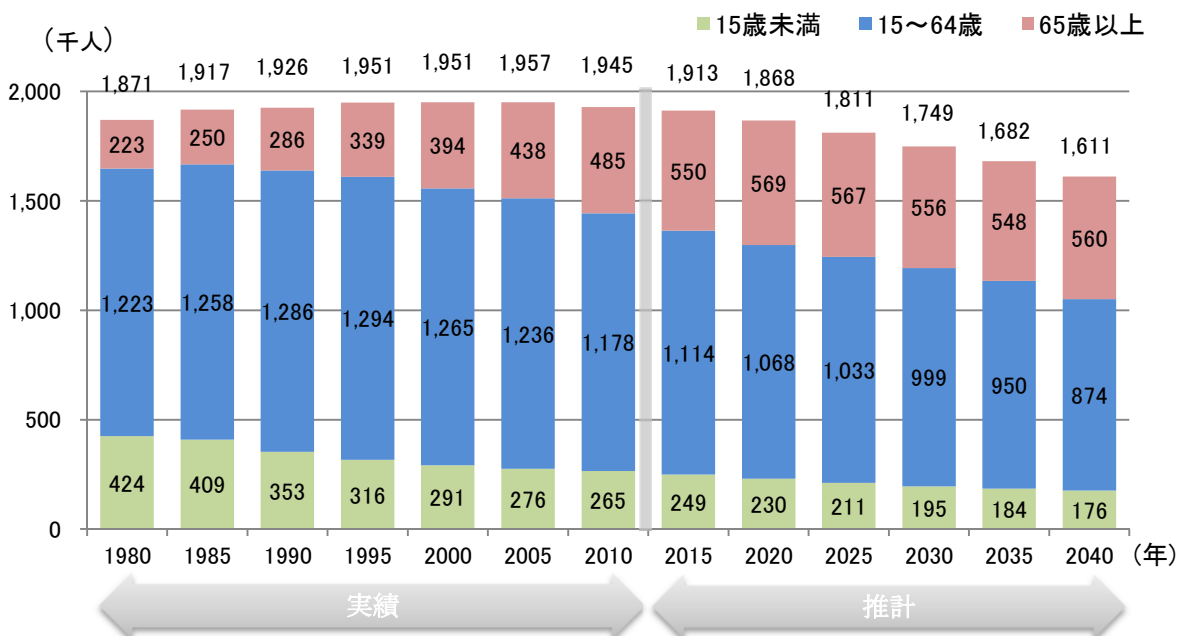
合計特殊出生率が上昇（2030 年に 1.8 程度、2040 年に 2.07）すれば、2060 年に総人口 1 億人程度を確保し、その後、2090 年頃には人口が定常状態になることが見込まれている。

(2) 岡山県の人口推移と将来の見通し

岡山県の人口は 2005（平成 22）年の 195 万 7 千人をピークに減少に転じ、2040 年の人口は 2010（平成 22）年より 17.2%少ない 161 万 1 千人となることが見込まれている。

0～14 歳、15～64 歳人口は減少し続ける一方、65 歳人口は 2020 年頃まで増加が続き、その後、横ばいとなる見込みとなっている。

図表 1 岡山県の人口推移と将来の見通し



資料：総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」

2. 岡山市の人口分析

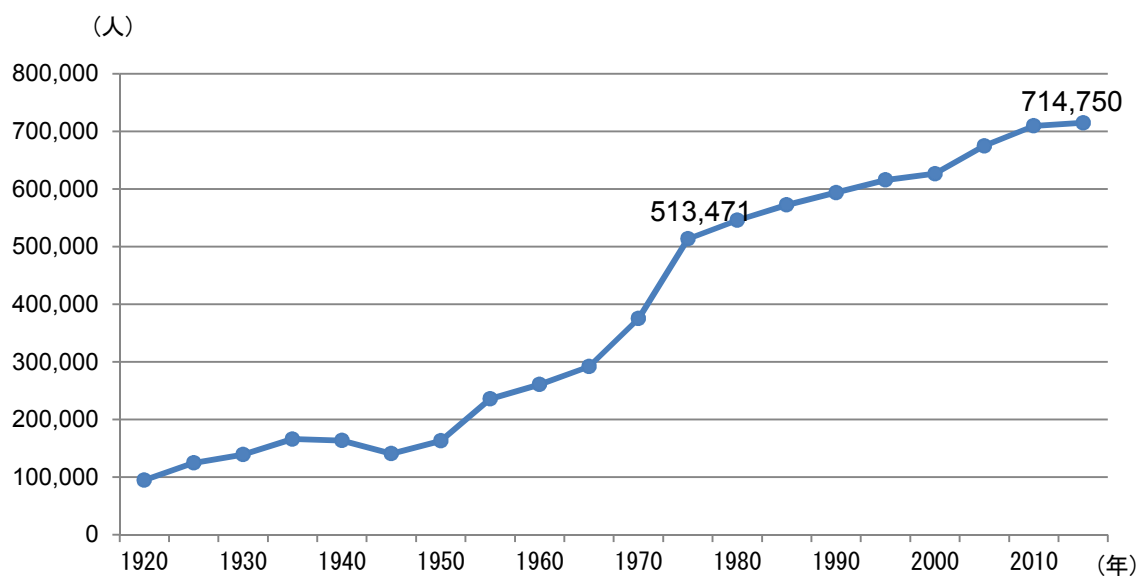
(1) 人口推移と将来推計

① これまでの人口推移

岡山市の人口は戦後一貫して増加している。高度経済成長期には、周辺市町村との合併が進むなど、1975（昭和50）年には人口が50万人を超え、その後も人口は着実に増加を続け、2007（平成19）年には、推計人口が70万人を突破し、2009（平成21）年4月に政令指定都市に移行した。

2015（平成27）年4月1日現在、714,750人（推計人口）となっている。

図表2 岡山市の人口推移



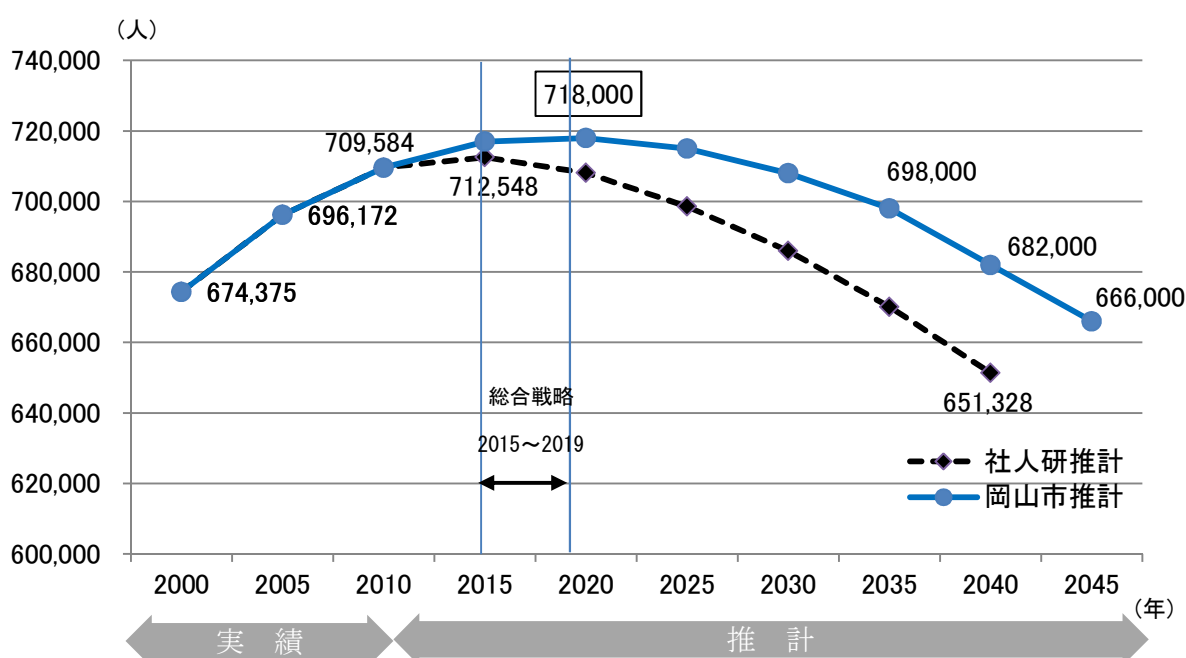
資料：総務省統計局「国勢調査」

②将来推計

本市の将来人口推計（2045年まで）は、以下のとおりである。
 なお、あわせて国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による推計値も示している。

今後も人口は増加を続けるが、2020年の71万8千人をピークに人口減少期に突入することが見込まれる。

図表3 岡山市人口の将来推計



資料：総務省統計局「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月推計）

(参考)岡山市推計の方法

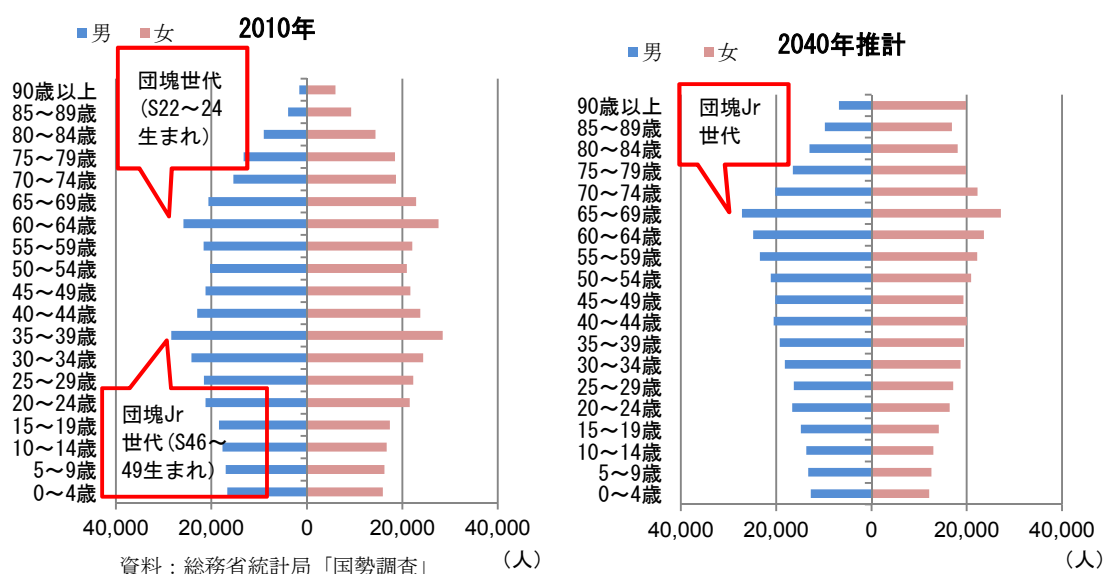
- ・推 計 期 間：2015(平成 27)年～2045 年
- ・基 準 人 口：2010(平成 22)年国勢調査による男女5歳階級別人口
- ・出 生（出生率）：岡山市の平成 21 年～25 年の平均値の 1.42 を基準値とし、将来の仮定値は横ばいとした。
- ・死 亡（生残率）：社人研「日本の地域別将来推計人口(H25 年 3 月推計)」の岡山市の生残率。
- ・純移動(純移動率)：岡山市の 2005(平成 17)年～2010(平成 22)年の国勢調査の結果に基づき、純移動率を設定し、将来の仮定値は横ばいとした。(社人研推計は、2010(平成 22)年から 2020 年までに定率で 0.5 倍に縮小し、その後は横ばいとしている。)

(2) 年齢別人口の現状と変化

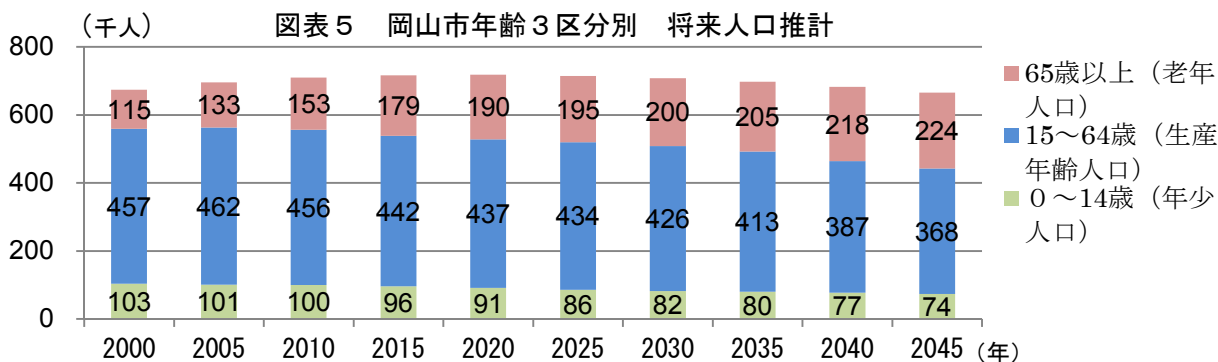
2010年と2040年の岡山市の人口構成の予測を比較した場合、2010年では35～39歳のいわゆる団塊ジュニア（第2次ベビーブーム）と呼ばれる年齢層での人口が男女とも最も多く、次いで60～64歳のいわゆる団塊の世代（第1次ベビーブーム）と呼ばれる年齢層が多い、「ひょうたん型」となっている。

一方、2040年では、人口のピークとなる年齢層が高齢側にシフトする「逆ピラミッド型」に移行する。

図表4 岡山市の年齢別人口（人口ピラミッド）



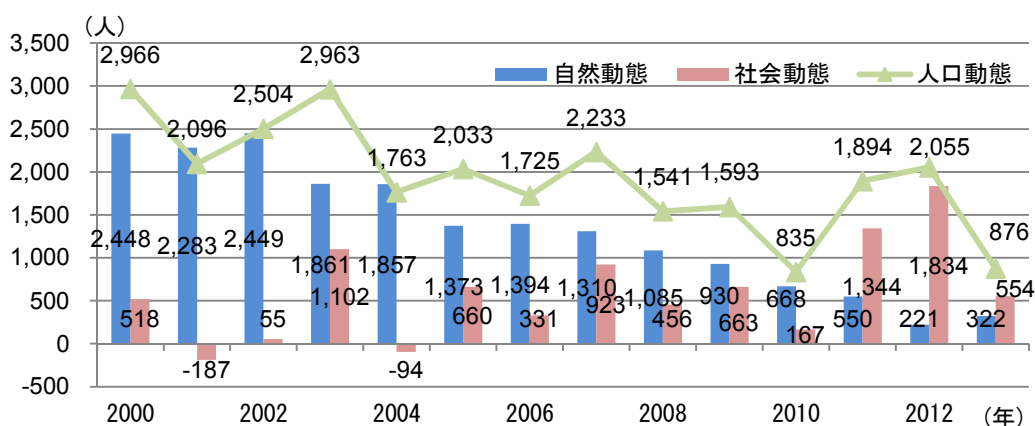
年少人口は、2010年の14.1%から、2045年には11.1%に、また、生産年齢人口は、2010年の64.3%から、団塊ジュニアが65歳以上となる2045年には55.3%に低下する。一方、老年人口は、2010年の21.6%から、2045年には33.6%に大幅に上昇する。



(3) 人口動態

岡山市の人口動態について、自然動態（出生－死亡）、社会動態（転入－転出）の別にみると、近年、自然動態のプラス幅は縮小傾向にある。これは主に死亡者数が増加傾向にあるためであると考えられる。社会動態は、2011年以降、プラス幅が拡大傾向にあったが、その後、2013年にはその動きも弱まってきている。

図表6 岡山市の人口動態



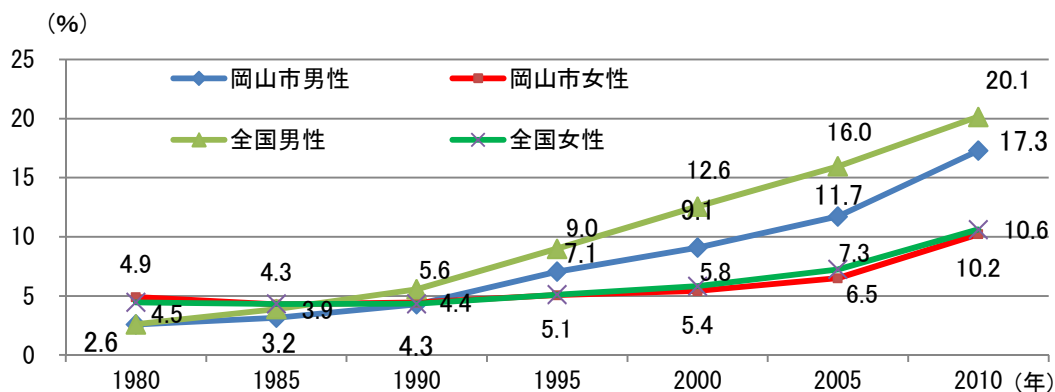
資料：岡山市「年報 岡山市の統計」、※データは同年1月～12月

①自然動態

ア 非婚化・晩婚化の進行

生涯未婚率は、男女とも全国より低くなっているが、全国と同様に、近年急激に上昇している。男性は1980年の2.6%から2010年には17.3%に、女性は4.9%から10.2%へ上昇しており、その傾向は特に男性において顕著である。

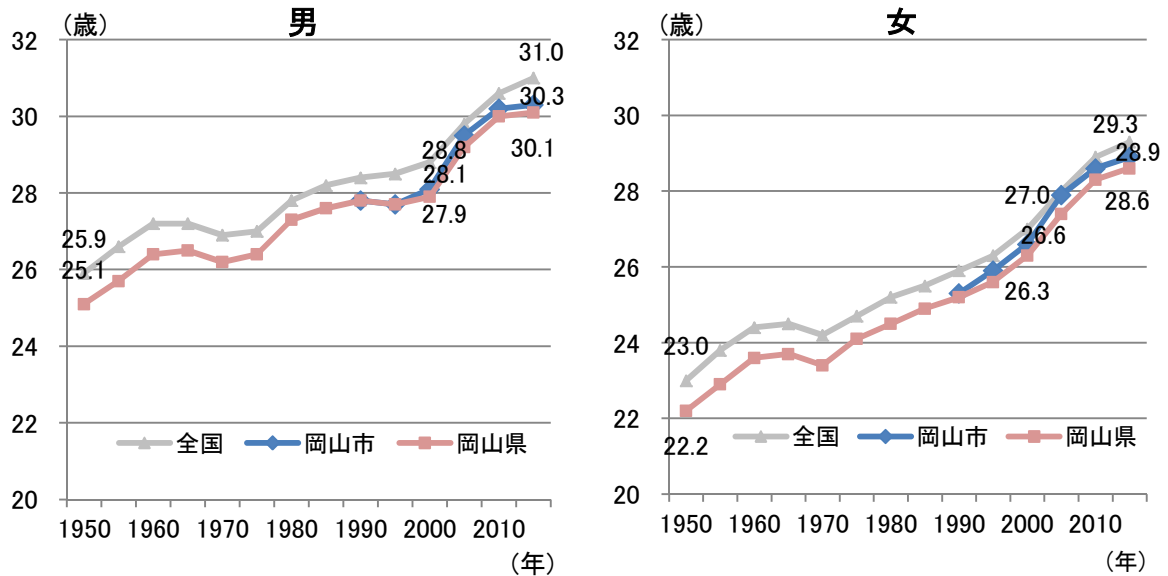
図表7 岡山市の生涯未婚率の推移



資料：総務省統計局「国勢調査」

また、平均初婚年齢は、男女とも全国平均より低いのが、全国同様、年々上昇傾向にあり、晩婚化が進行している。これは、大学進学率の上昇や、経済的な不安を抱える若者の増加、働く女性の増加などが影響しているものと考えられ、こうした晩婚化は、夫婦の平均出生数を減少させる。

図表 8 岡山市の平均初婚年齢の推移

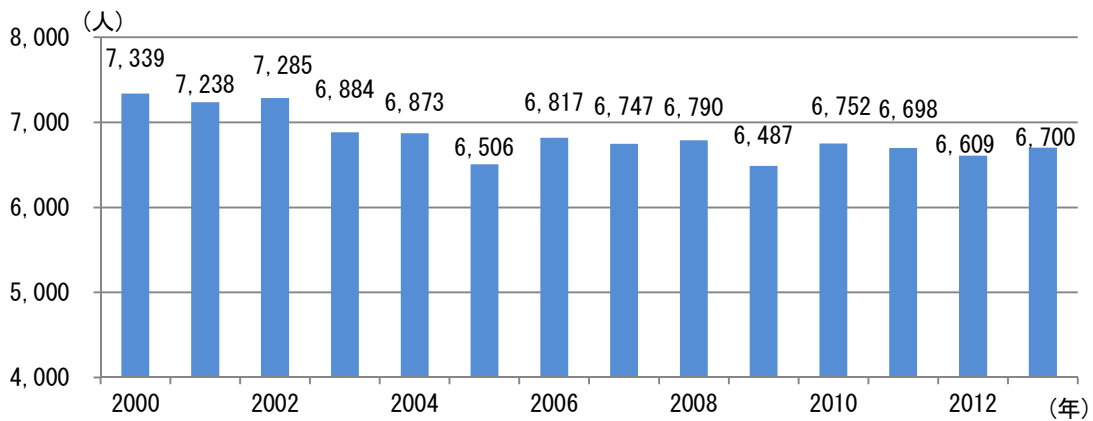


資料：厚生労働省「人口動態統計」、岡山県「岡山県衛生統計年報」

イ 出生数の推移

岡山市の出生数は、2000年から2005年にかけて減少した後、2009年を除けば概ね6,600～6,800人前後で推移している。

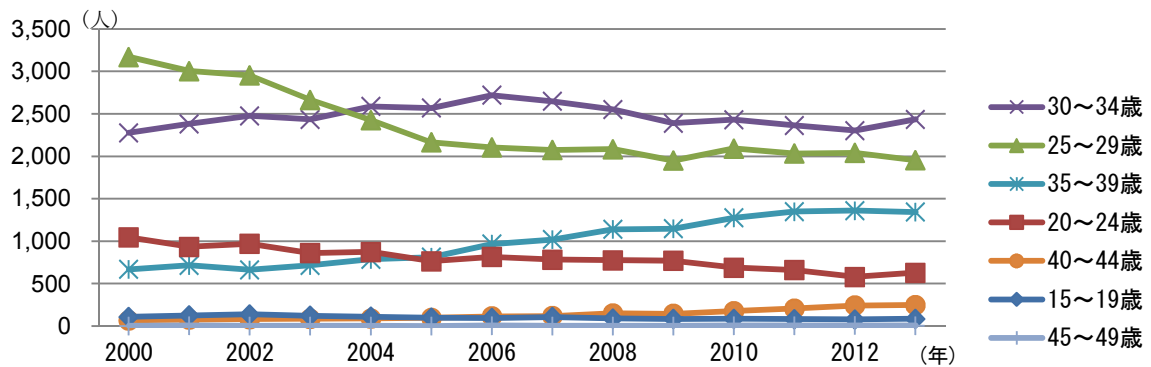
図表 9 岡山市の出生数の推移



資料：岡山県「岡山県衛生統計年報」、総務省「人口動態統計」

岡山市の出生数を母の年齢別にみると、最多の30～34歳は概ね横ばいで推移している。25～29歳が概ね下げ止まる中で、35～39歳が着実に増加し、40～44歳は、緩やかに増加している。出産年齢の高齢化は女性の社会進出の増加に伴う晩婚化に因るところが大きいものと考えられる。

図表 10 母の年齢階級別にみた岡山市の出生数



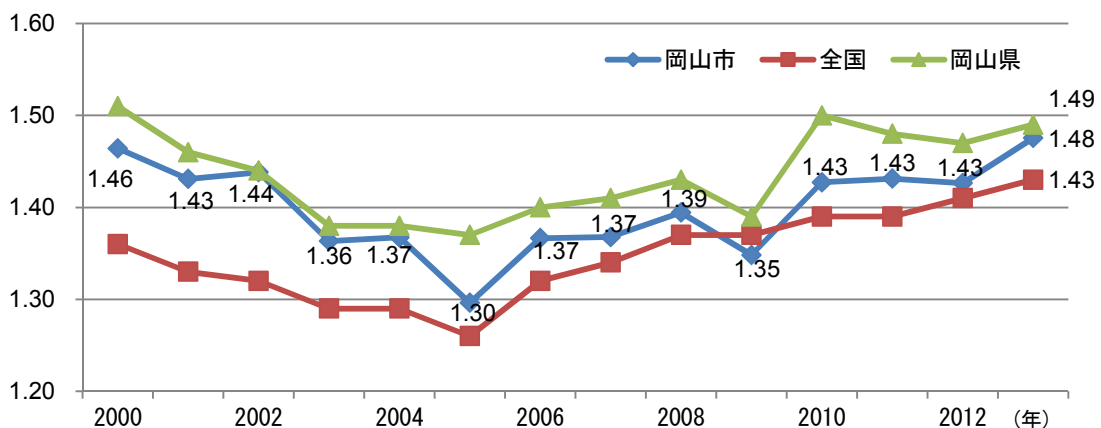
資料：岡山県「岡山県衛生統計年報」、総務省「人口動態統計」

ウ 合計特殊出生率の推移

母の年齢別出生率を合計した岡山市の合計特殊出生率は、岡山県を若干下回るものの、全国より概ね高い水準で推移している。

2003年～2009年の間は1.3台で低迷していたが、2010年以降は1.4台に上昇し、最近5年の平均値は1.42となっている。ただし、出産適齢人口が減少傾向であることや、これまで出生数を支えていた団塊ジュニアが40歳代に入り、今後は出生率の低下が懸念される。

図表 11 岡山市の合計特殊出生率の推移



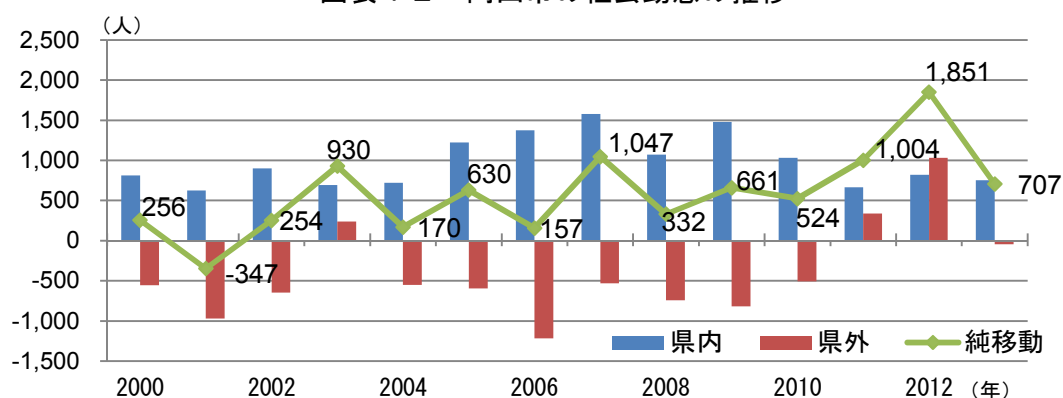
資料：岡山県「岡山県衛生統計年報」

②社会動態

ア 社会動態の推移

岡山市の社会動態をみると、県内に対しては、純移動（転入－転出）は常にプラス（転入超過）で推移している。一方、県外に対しては、概ねマイナス（転出超過）で推移してきたが、2011年、2012年には東日本大震災の影響により大きく転入超過となり、その後、2013年にはその動きも弱まってきている。

図表 1 2 岡山市の社会動態の推移



注：日本人のみ、データは前年10月～同年9月

資料：岡山市「岡山市の統計」（ただし、2013年は岡山県「岡山県の人口の動き－岡山県毎月流動人口調査」）

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
県内	812	624	902	693	722	1,223	1,375
県外	-556	-971	-648	237	-552	-593	-1,218
純移動	256	-347	254	930	170	630	157

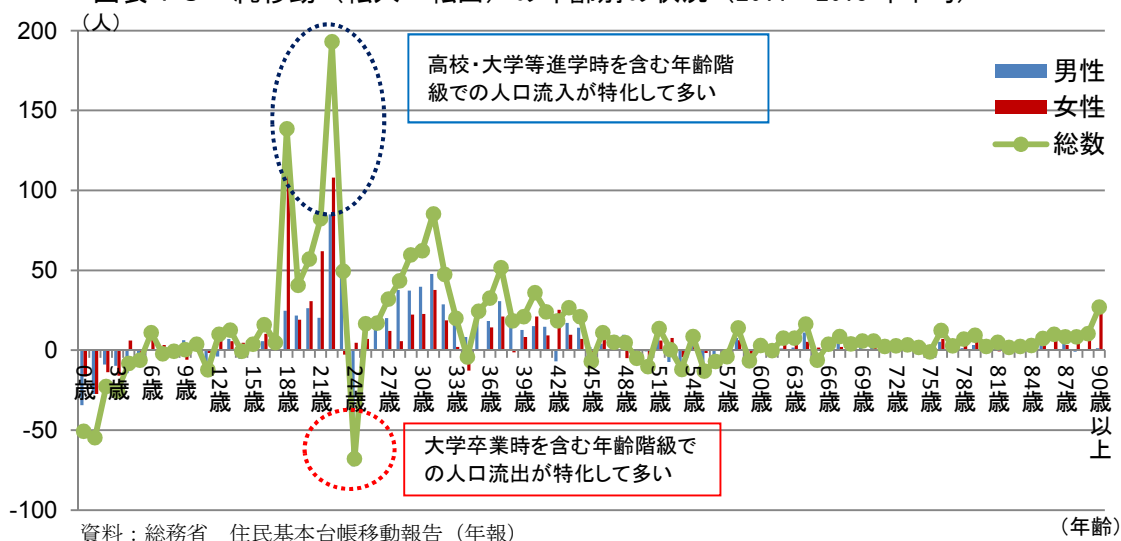
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
県内	1,577	1,073	1,480	1,032	665	819	752
県外	-530	-741	-819	-508	339	1,032	-45
純移動	1,047	332	661	524	1,004	1,851	707

イ 年齢階級別の社会動態推移

岡山市の純移動の年齢階級別の状況をみると、大学等への進学から卒業、就職の時期に当たる18～23歳に純移動は大きくプラス（転入超過）となっているが、24歳で大きくマイナス（転出超過）となっている。

一方、就職、結婚、転勤、子の進学などのライフステージの節目が続く、20代後半から40代前半にかけては、純移動は概ねプラス（転入超過）である。

図表 1 3 純移動（転入－転出）の年齢別の状況（2011～2013年平均）

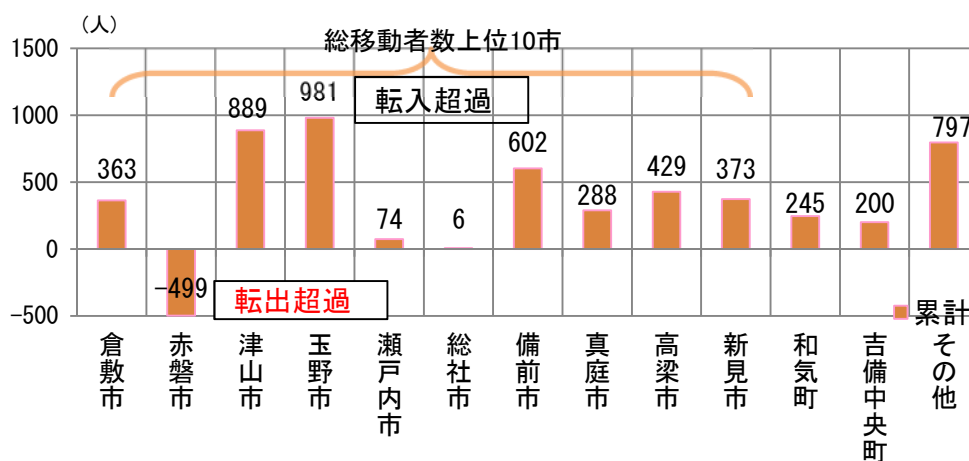


ウ 県内の市町村との純移動の状況

県内移動の状況をみると、県内は、ほとんどの市町村からの純移動がプラス（転入超過）となっている。

市町村別では、玉野市、備前市、津山市など広域から流入する一方、赤磐市へ流出超過となっている。

図表 1 4 県内市町村との純移動の状況（2009～2013年の累計）

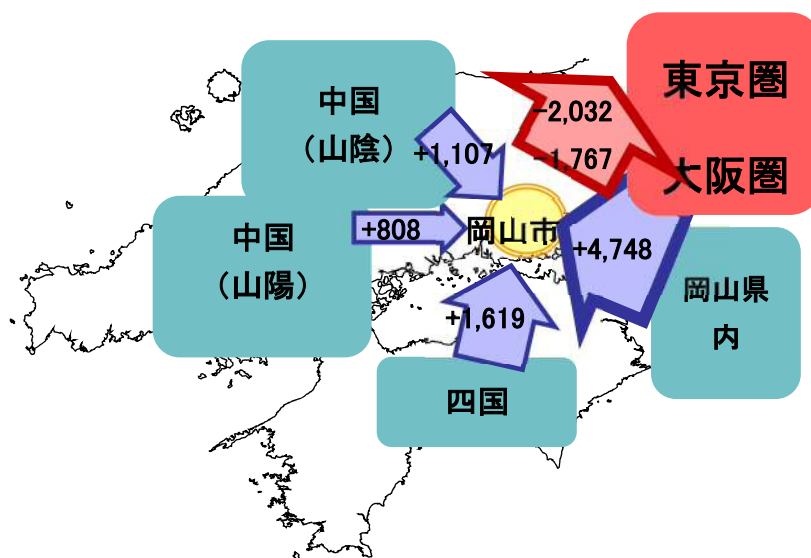


エ

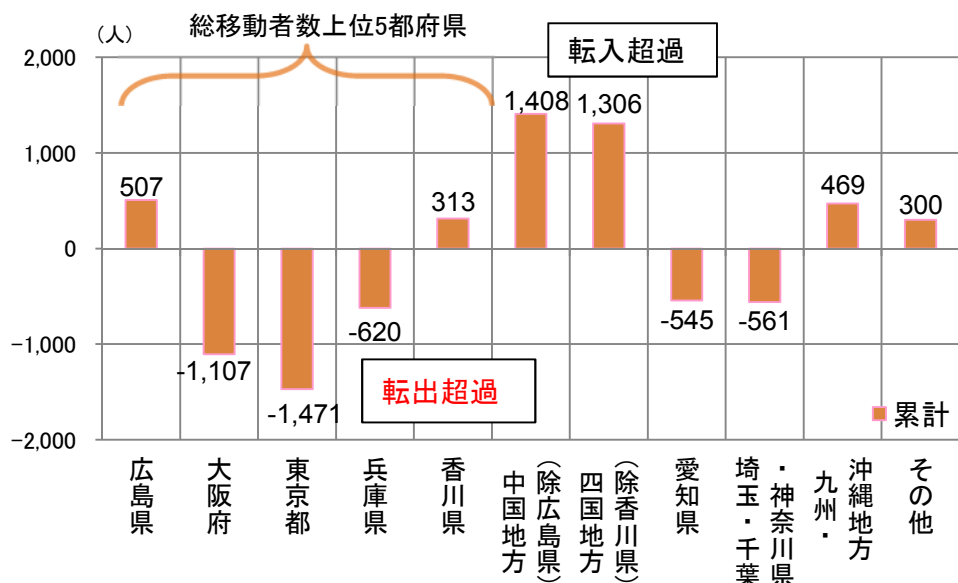
県外との純移動の推移

2009年から2013年において県外転入・転出者の純移動の状況は、中国・四国地方からの純移動がプラス（転入超過）となっており、東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県合計）や大阪圏（大阪府、兵庫県、京都府、奈良県合計）に対して、純移動がマイナス（転出超過）となっている。

図表15 県外の純移動の状況（2009～2013年の累計）



図表16 県外の都道府県との純移動の状況（2009～2013年の累計）



※日本人のみ、対象。

資料：「岡山市の統計」（ただし、2013年は岡山県「岡山県の人口の動き 岡山県毎月人口流動調査」）

Ⅱ 岡山市の人口の将来展望

1. 目指すべき将来の方向の基礎となる市民の意識等

(1) 結婚・出産・子育てに関する市民意識

岡山市において、18歳から40歳までの市民、小学6年生以下の児童の保護者、0歳から6歳までの未就学児の保護者を対象に実施した「結婚・出産・子育てに関する意識調査（平成27年10月）」の主な結果は、以下の通りである。

<主な結果>

- 未婚の方の結婚希望としては、「ある」が72%、「ない」が13%となっている。
- 晩婚化が進んでいる理由（複数回答）としては、「安定した収入が得られていない」が50%と最も多く、次いで、「仕事と家庭・育児の両立が負担」が40%、「出会いの場の不足」が38%となっている。
- 出産前後の離職については、「した」が52%と5割以上が離職している。
- 理想の子どもの数としては、「2人」が47%と最も多く、次いで、「3人」が40%、「1人」は3%となっており、一方、現実として育てられる子どもの人数としては、「2人」が53%と最も多く、次いで、「3人」が24%、「1人」が14%となっており、理想と現実の子どもの数には差がある。
- 子育てしにくい理由（複数回答）としては、「教育費等多くの費用がかかる」が66%と最も多く、次いで、「仕事と家庭・育児等の両立が負担」が63%、「子育てに関する経済的支援が少ない」が59%、「保育所など子どもの預け先がない」が48%となっている。

(調査概要)

- ・配布数：1,000通（回収率32.9%）
- ・回収数：329通
- ・調査方法：郵送による配布・回収
- ・調査期間：平成27年6月28日～8月10日

(2) 移住・定住に関する意識

岡山市において、岡山県を移住先として検討している方を対象に実施した「移住に関する意識・希望調査（平成27年10月）」の主な結果は、以下の通りである。

<主な結果>

- 移住希望の理由やきっかけ（複数回答）として、「地方で暮らしたいため」が62%、「災害への安全性の確保」54%、「生活を変えたいため」が39%となっている。
- 移住・定住先の希望（複数回答）としては、「気候・自然環境がよい」が87%と最も多く、「医療・福祉サービスが充実している」が55%、「仕事がある」及び「その他」が52%となっている。
- 岡山市に対するイメージとしては、「住みやすい」が70%と、多くの回答者が住みやすいイメージをもっている。
- 住みやすい理由（複数回答）としては、「温暖な気候で豊かな自然の恵み」が63%と最も多く、次いで「災害が少なく安全である」が48%、「公共交通機関が発達」が17%となっている。

(調査概要)

- ・配布数：300通（回収率20%）
- ・回収数：60通（回答者内訳：埼玉県9、東京都30、千葉県4、神奈川県13、静岡県3、岡山県1）
- ・調査方法：NPO法人ふるさと回帰支援センターを通じた郵送による配布・回収
- ・調査期間：平成27年6月28日～8月10日

2. 目指すべき将来の方向

方向性1 若い世代の結婚・出産・子育てに関する希望を実現する

若い世代が希望を持ち、安心して家庭を築き、さらに安心して出産、子育てができるよう出会いから結婚、妊娠、出産、子育てまで切れ目のない支援を充実するなど、子育てを支える環境づくりを進め、出生率の向上を目指す。

方向性2 大都市圏から「ひと」「しごと」の流れをつくる

岡山市は地震や台風などの災害リスクが低いほか、降水量1mm未満の日数の多さが日本一であるなど瀬戸内の温暖な気候に恵まれており、また、中国・四国地方のクロスポイントとしての交通利便性の高さ、多くの医療機関の集積などの岡山市の強みを生かし、社会増を維持し、さらに高める取組を推進していかなければならない。

このため、企業誘致などによる雇用創出や地域資源の掘り起し、岡山市の魅力向上を図り、若者の就職等による東京圏、大阪圏への転出に歯止めをかけるとともに、移住・定住に係る取組をさらに推進し、特に大都市圏からのUIJターンの取組を促進する。

方向性3 安心と拠点性を高め、地域と地域を連携する

また、地域で人を育て、地域の課題を自ら考え、地域の皆が共に学び合い、持続可能な地域をつくることを目指す岡山ESDの取組を深化するなど、地域に対する愛着、帰属意識を高め人口定着を図る。

高齢者の急増に伴う医療・介護需要の増大に対応した取組や、高齢者や子育て世帯等の多様な世代がいきいきと安心して暮らせる住環境の整備を進める。

3. 本市人口の将来展望

(1) 将来人口推計

①推計パターン

<基本推計>

○本市が独自に実施した将来人口推計（合計特殊出生率：平成21年～25年の平均値1.42。4頁参照）による、2060年までの長期推計。

<将来展望推計>

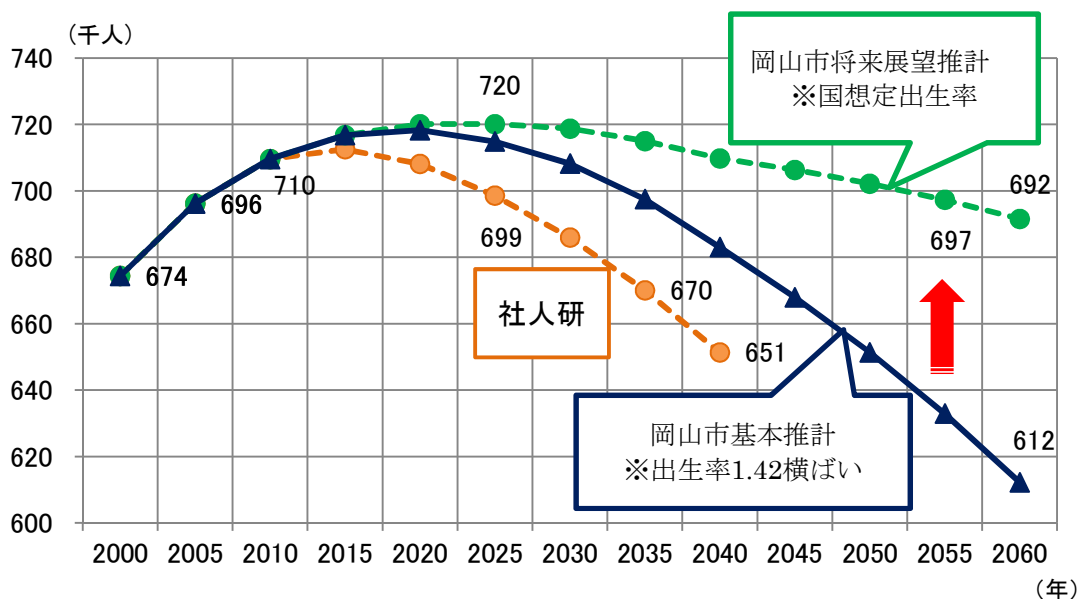
○本市の上記将来人口推計を基に、合計特殊出生率について、国の長期ビジョンが想定する出生率（2020年に出生率＝1.6程度、2030年に1.8程度まで向上し、2040年に人口が安定的に維持できる水準（人口置換水準）である2.07が達成されるケース）に置き換えた場合の2060年までの長期推計。

②推計結果

上記基本推計によると、2060年には61万2千人程度と見込まれる。

上記将来展望推計によると、国想定出生率が達成された場合、2025年の72万人程度をピークに人口減少期に入り、2060年には69万2千人程度と見込まれる。それ以降も緩やかに人口減少は続くが、2080年以降、67万人程度で安定することが見込まれる。

図表17 岡山市の将来人口推計



③人口の将来展望

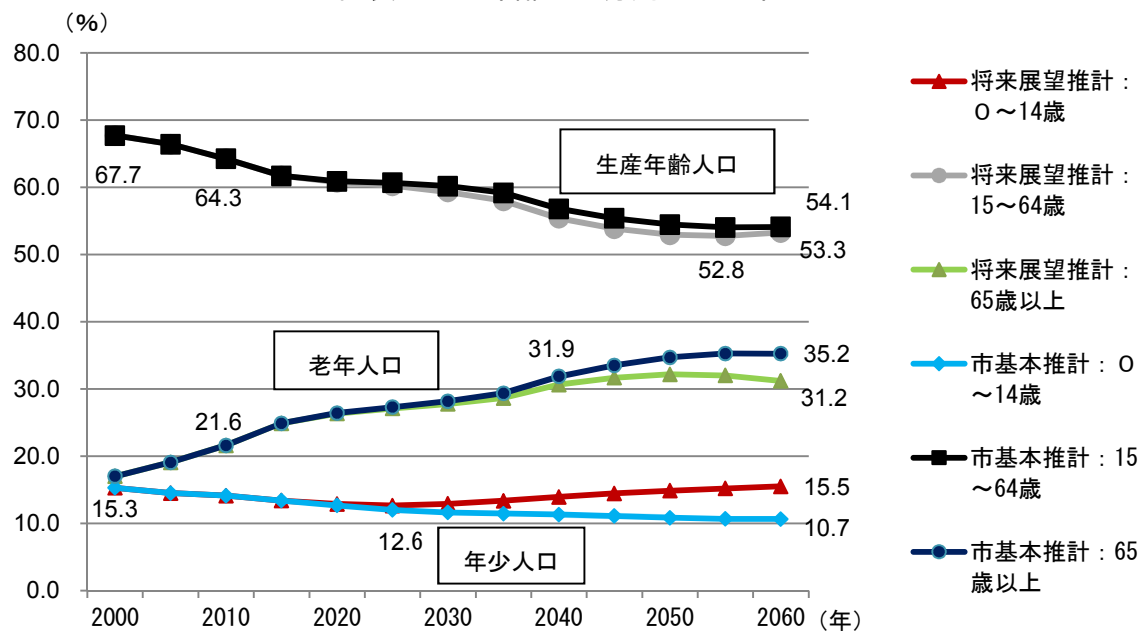
国想定出生率による人口推計（上記市将来展望推計）を展望しつつ、「岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を着実に実行することにより、人口減少傾向を抑制し、市基本推計人口水準の引き上げを図る。

（２）将来の年齢３区分別人口推計

①年齢３区分別人口比率

国想定出生率が達成された場合（市将来展望推計）、年少人口比率は、2025年の12.6%を底に下げ止まることが見込まれる。また、生産年齢人口比率は、2055年の52.8%を底に下げ止まり、老年人口比率は、2040年には市の総人口の3割を超えることが見込まれる。

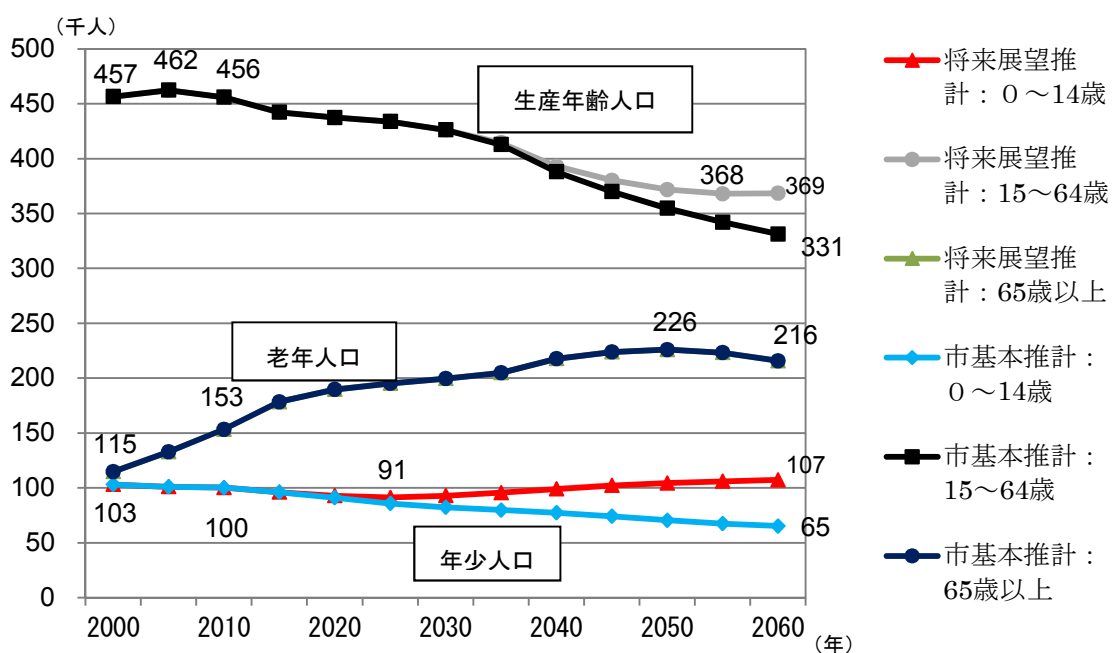
図表 18 年齢３区分別人口比率



②年齢3区分別人口

国想定出生率が達成された場合（将来展望推計）、年少人口は、2025年の9万1千人を底に増加に転じることが見込まれる。また、生産年齢人口は、減少を続けるが、2055年の36万8千人を底に下げ止まり、老年人口は、2050年の22万6千人をピークに減少に転じることが見込まれる。

図表19 年齢3区分別人口



岡山市
まち・ひと・しごと創生総合戦略
(案)

平成27年10月
岡山市

目 次

I 総合戦略の基本的な考え方

- 1 基本的な考え方 1
 - (1) 総合戦略の位置づけ 1
 - (2) 計画期間 1
 - (3) 岡山市人口の将来見通し 1
 - (4) 岡山市の強みと特長を活かした地方創生の着眼点 1
- 2 総合戦略の基本目標 4

II 目指す方向と具体的施策

基本目標 1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する

- (1) 新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興 8
- (2) 歴史・文化資源等を活かした観光誘客の促進 10
- (3) 活力ある農業の振興 12
- (4) 地域の活力を担う人材の育成・確保 13

基本目標 2 岡山市への新しいひとの流れをつくる

- (1) 移住・定住の促進 15
- (2) 「生涯活躍のまち(日本版CCRC)構想」の推進 17
- (3) 地元大学等との連携 17

基本目標 3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

- (1) 保育所・放課後児童クラブへの入所待機児童の解消 19
- (2) 結婚・出産・子育て支援 20
- (3) ワーク・ライフ・バランスと女性の活躍推進 21

基本目標 4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する

- (1) コンパクトでネットワーク化された活力あふれるまちづくり 24
- (2) 地域連携の推進 26
- (3) 健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源を生かした地域づくり 27
- (4) 安心に暮らせる地域づくり 28
- (5) 地域の課題解決のための持続可能な取組 29

III 総合戦略の推進体制

- 1 推進体制の確立 32
- 2 PDCAサイクルによる施策の推進と検証 32

I 総合戦略の基本的な考え方

1 基本的な考え方

(1) 総合戦略の位置づけ

本総合戦略は、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」、岡山県の「岡山県人口ビジョン」及び「おかやま創生総合戦略」を勘案しつつ、「岡山市人口ビジョン」を踏まえ、岡山市としての地方創生の基本目標を示し、これを実現するために重点的に取り組むべき施策の展開の方向性を示すものである。

これにより、まち・ひと・しごとの創生と好循環を確立し、活力ある地域社会の維持を目指すものであり、行政のみならず、産官学金労言や住民代表の参画の下、策定し、検証していく。

(2) 計画期間

総合戦略の計画期間は、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間とする。

(3) 岡山市人口の将来見通し

我が国の総人口は、2008 年の約 1 億 2,800 万人をピークに減少を始め、2048 年には人口が 1 億人を割り込むことが見込まれている。また、若年人口、生産年齢人口の減少と高齢人口の増加が進むとともに、人口の東京一極集中が進展するなど地域的な偏在が加速している。

このように我が国の人口が、今後大きく減少することが見込まれる中、「岡山市人口ビジョン」においては、2060 年の人口推計を示したところである。

岡山市の人口は、現状で推移すれば、2060 年には 61 万 2 千人程度となる見込み（市基本推計）であるが、国が想定する出生率が達成された場合、2025 年の 72 万人程度をピークに人口減少期に入り、2060 年には 69 万 2 千人程度となる見込み（市将来展望推計）である。

(4) 岡山市の強みと特長を活かした地方創生の着眼点

このような基本的な認識の下、本総合戦略においては、以下に示す岡山市の強みと特長を最大限に活かした、効果的な施策を展開していくこととする。

○ 中四国の交通結節点、高い都市機能集積

本市は、中四国の交通の結節点に立地し、高次の都市機能と産業が集積し、観光・コンベンション、ビジネスの高い交流拠点性を有しており、岡山市を中心都市とする都市圏域を力強く牽引していく役割が期待されている。また、

多くの学生が集う学術・研究の拠点となっている。

このような優位性と期待される役割を認識した上で、国内はもとより、国外からのひとの流れも視野に入れ、拠点都市としての牽引力を強化し、各種産業の競争力を高め、国内外から稼げる産業に成長させることにより、「ひと」と「しごと」を呼び込むことが重要である。

○ 安全・安心の生活環境

岡山市は温暖な気候に恵まれた「晴れの国」であり、広大な市域の中で、身近な自然と共生しながら、豊かに暮らせる生活環境は、都市としての大きな魅力であるとともに、直下に活断層が存在せず、地震などの大規模災害が少ない「安全・安心」な都市としての岡山市の認知度は全国的に高まりつつある。

このような岡山市の生活環境の豊かさを積極的に発信し、移住・定住や企業誘致に結び付けるなど、新たな「ひと」の流れを生み出すことが重要である。

○ 医療・介護資源の集積

岡山市は、岡山大学病院をはじめ、高度な医療を提供する医療機関が集積し、豊富な医療・介護資源を有していることから、在宅介護総合特区など全国に先駆けて取組を展開するなど、「在宅医療・介護先進都市」として全国的に注目されるとともに、「スマートウェルネスシティ総合特区」に加入し、全国に先駆けていち早く健康寿命の延伸を目指す取組を進めているところである。

このような充実した医療・介護環境は、市民の健康と生命を守る重要な基盤であるが、こうした地域資源を生かしながら、市民の健康な生活をサポートする産業をさらに育成し、「まち」全体として市民生活の安心を支えていくことが重要である。

○ 岡山固有のテーマ性の高い歴史・文化資源等の保有

岡山を代表する観光資源である「岡山城・岡山後樂園」エリアをはじめ、「吉備路」に存在するテーマ性の高い数多くの歴史・文化資源を有機的につなげるなど、市内に多く残る歴史・文化資源に磨きをかけ、岡山ならではの「まち」の魅力を創出することが重要である。

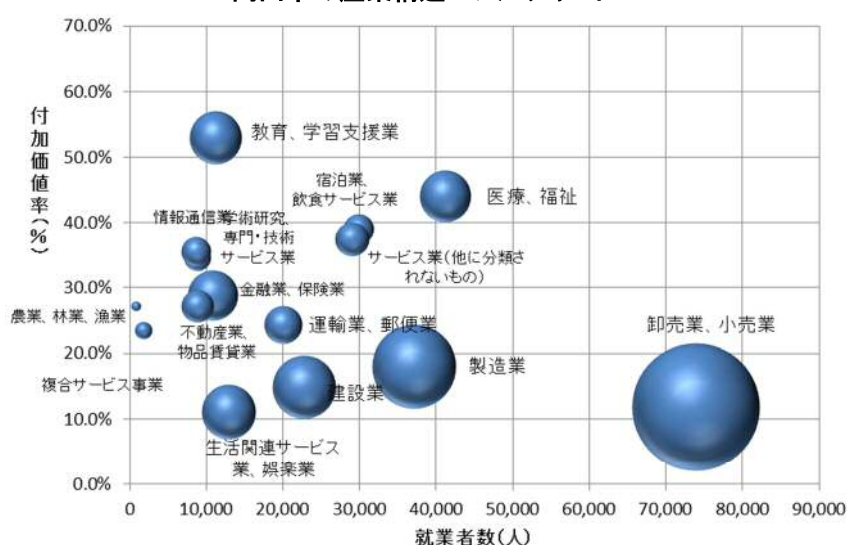
○ 第3次産業中心の産業構造

産業別の事業所数は、「卸売業、小売業」が約3割を占め、「宿泊業、飲食サ

サービス業」や「医療、福祉」の割合が比較的高く、第3次産業に比重を置いた産業構造となっている。また、産業別の就業者数に着目すると、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「製造業」、「宿泊業、飲食サービス業」の順に就業者が多く、これらの産業が岡山市の雇用を支えている。

このうち「医療、福祉」は、付加価値率が高い産業となっており（下図参照）、人口減少・高齢化の進行に際し、将来的な需要増が見込まれる中で、今後、岡山市の充実した医療・介護資源を生かしつつ、市民の健康な生活をサポートする産業の振興を図っていくことが重要である。

岡山市の産業構造バブルチャート



【出典】総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」

(※)バブルの大きさは売上高を示す。

$$\text{付加価値率} = (\text{付加価値額} \div \text{売上高}) \times 100$$

$$\text{付加価値額} = \text{売上高} - \text{費用総額} + \text{給与総額} + \text{租税公課} \quad (\text{費用総額} = \text{売上原価} + \text{販売費} + \text{び一般管理費})$$

○ 活発な地域活動、ESDの取組

岡山市では、防犯・防災、環境美化、子ども・高齢者の見守りなど活発な地域活動が行われている。

また、2014年には「ESDに関するユネスコ世界会議」が岡山市で開催され、公民館を拠点として地域が連携した「ESD岡山モデル」が高い評価を得るなど、地域の特性に即した地域課題の解決により、持続可能な地域づくりに取り組んでいる。2015年には、ESD推進のための「地域・地方での取組の促進」分野のユネスコ「キーパートナー」に認定されたところである。

こうした協働・ESDの視点に基づき、多様な担い手による地域活動の促進や地域を担う人材の育成を図っていくことが重要である。

2 総合戦略の基本目標

本総合戦略は、「岡山市人口ビジョン」で示した市将来展望推計人口を展望しつつ、(4)の着眼点に基づき、以下の4つの「基本目標」を設定し、地方創生の取組を体系的かつ戦略的に推進することにより、人口減少傾向を抑制し、市基本推計人口の引き上げを図ることが必要である。

岡山市の人口は、将来的に減少に転ずることが見込まれるが、その要因としては、①現状において、若者等が進学・就職等を契機に東京圏や大阪圏などへ転出する傾向が強いこと（社会減への対策の必要性）、②市民の出産・子育ての希望を実現するなど、出生率を高めていくことが求められること（自然減への対策の必要性）、が挙げられる。

このような観点からは、以下に掲げる基本目標のうち、基本目標1、2は、主として社会減対策の側面をもつものであり、基本目標3、4は、主として自然減対策の側面をもつものである。

基本目標1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する

(基本的な考え方)

- 人口減少による負の連鎖を克服するためには、若者が地域で働くことができるよう、地域経済の好循環を生み出し、安定した雇用を創出するとともに、地域産業を担う人材の育成を図ることが重要である。
- 岡山市の持つ恵まれた気候風土や広域的な立地の優位性等の強みを活かし、産業の創出・育成や活力ある農業の振興を図るとともに、歴史・文化資源等も活用し、増加が見込まれる外国人観光客も念頭に、国内外からの広域的な観光・コンベンション誘致等に重点的に取り組む。

基本目標2 岡山市への新しいひとの流れをつくる

(基本的な考え方)

- 将来的な人口減少は、地域の労働人口の減少や経済規模の縮小をもたらすものであり、地域・圏域経済の活力を維持していくためには、「新しいひとの流れ」をつくる必要がある。
- 岡山市における社会減の要因である、就職等を機とした県外への転出超過状況を踏まえ、市内に立地する大学等や企業と連携して、「内に人材をとどめる」ための施策に取り組む。
- また、「外から多くの人材を呼び込む」ため、岡山市の生活環境の豊かさを積極的に情報発信し、主に大都市圏等からの移住・定住の促進に取り組む。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

(基本的な考え方)

- 岡山市では、すべての子どもが健やかに成長し、安全で安心して子どもを産み育てることができるまちを目指して、総合的な子ども・子育て対策を進めているが、今後も少子化傾向は続くことが見込まれる。
- 結婚や子育てを希望しながらも、経済的な問題や仕事と育児の両立が難しいなど、その希望を断念せざるを得ない状況も生じており、少子化の流れを変えるためにも、若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなう環境を整える必要がある。
- 「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」ことに社会全体で取り組むことが重要であり、結婚や出産・育児などのライフステージに応じて、就労を希望する女性が働き方を選択できるよう、全市的に、ワーク・ライフ・バランスの推進と女性の活躍推進に向けた取組を積極的に進める。

基本目標4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する

(基本的な考え方)

- 将来的な人口減少・高齢化社会を見据え、都心部と周辺地域それぞれの生活圏域の特性を踏まえながら、都心部については、都市機能の集積と交流拠点性を高め、周辺地域については、多様な地域資源や特色を活かしながら生活機能を維持し、相互にネットワークで結ぶことにより、「コンパクトでネットワーク化された多様なまちづくり」を目指す。
- 岡山市の周辺市町との連携により、岡山市の拠点機能を活かすとともに、相互に機能を補完し合うことにより、住民生活の利便性の向上や圏域全体の発展につながるよう、関係市町と一体となって連携施策に取り組んでいく。
- 地域での健康づくりを推進し、健康寿命の延伸を図るとともに、岡山市の豊富な医療・介護資源を生かしながら、在宅医療・介護の推進等を実施し、医療や介護が必要になってもだれもが安心して暮らし続けられる社会を目指す。
- 住む人が、犯罪や交通事故の少ない地域社会を基盤として、「安全・安心な暮らし」を実感することができ、だれもが「住み続けたい」と思うことができる都市の安心を確保する。

II 目指す方向と具体的施策

基本目標 1 岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する

【数値目標】

■市内就業者数 365,414人 (H24) → 373,000人 (H31)

■市内企業等における管理的職業従事者に占める女性の割合
10.7% (H24) → 21% (H34)

基本的方向

(1) 新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興

地場産業の育成・強化及び地域資源を活かした戦略的な産業の創出・育成を図るとともに、広域交通の拠点性や恵まれた自然環境、災害リスクの低さ等を活かし、新たな企業立地に取り組む。

(2) 歴史・文化資源等を活かした観光誘客の促進

岡山城と岡山後楽園の連携により観光地としての魅力向上を図るとともに、地域の歴史・文化資源をあらためて広域に収集・顕彰し、テーマやストーリー性を重視した新たな情報発信により、国内外からの観光客の増加を図り、近隣自治体を含む圏域全体の経済効果の創出を目指す。

また、岡山市のイメージとして定着している「桃太郎」を積極的にPRするとともに、「おかやま桃太郎まつり」の開催に加え、「(仮称)岡山国際現代芸術祭」や「おかやまマラソン」などの新たなイベントを開催し、国内外から多くの観光客を呼び込むとともに、受け入れ環境の整備に取り組む。

(3) 活力ある農業の振興

恵まれた気候風土を活かした多彩な農業を振興するため、活力ある農業の担い手となる新たな人材の確保・育成を図るとともに、地産地消の推進による都市部への販路開拓・拡大や、広大な農地と多数の農業インフラの保全及び地域活性化につながる農村コミュニティの再生・強化を図る。

(4) 地域の活力を担う人材の育成・確保

女性をはじめ、高齢者、障害者など、多様な人材がその能力を発揮し、活

躍できる環境を整備するなど、地域の活力を生み出す。

また、グローバル化が進む中、豊かな語学力・コミュニケーション能力を身に付け、国際的に活躍できる「グローバル人材」の育成を進める。

具体的な施策と重要業績指標（KPI）

（１）新たな雇用と成長を促す戦略的な産業振興

①地場産業の育成・強化

中小企業の経営体質を強化するとともに、技術やノウハウ、企業風土等について、消費や取引、雇用とのマッチングを図る。

また、商店街振興のためには、各商店街のもつ特徴を活かすとともに、不動産を有効に活用することにより新たな消費ニーズを喚起していく。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
製造業総生産	3,662 億円(H24)	3,919 億円
卸売・小売業総生産	4,309 億円(H24)	4,716 億円
サービス業総生産	5,975 億円(H24)	6,509 億円
商店街歩行者通行量(休日)	5,283 人(H26)	5,700 人
商店街歩行者通行量(平日)	4,113 人(H26)	4,400 人
開業率	5.4%(H26)	6.4%
市内就業者数【再掲】	365,414 人(H24)	373,000 人

（具体的な事業）

事業名	内容
地場産業振興事業	見本市・展示会等への出展費用補助、見本市等の出展から出展後までの一貫したアドバイス支援、地域産品ブランド力向上支援等
技術向上促進事業	広域商談会の開催、大規模展示会への共同出展支援等
商業振興事業	商店街の空き店舗対策、商店街のやる気の後押し事業等
商店街振興事業	商店街のイベント開催支援、情報発信支援
商業団体等助成事業	中小企業の経営課題等に対応する商工会議所・商工会への補助金等
商工業近代化指導事業	設備投資、情報発信支援、創業補助金等
中小企業経営診断事業	経営・法律等の相談、起業家塾開催等
中小企業融資制度資金貸付事業	中小企業融資制度利子補給・保証料補給等

雇用対策等事業	新規学卒者等合同企業説明会の開催、求人・企業情報の大学等への提供等
勤労者サポートプラザ事業	市内中小企業の福利厚生事業を行う勤労者サポートプラザへの補助

②地域資源を活かした戦略的な産業の創出・育成

商工業はもとより、サービス業や農林水産業等、岡山市の経済全体を「健康な暮らしをサポートする」という方向性に沿って活性化させることを目指す。

そのために、充実した医療・介護環境等本市の地域資源を活かし、産官学芸による幅広い交流・連携等による「ヘルスケア産業」の創出・育成への取組を通じて、地方創生につながる岡山発の事業化モデルを創出し、新たな創業や商品開発を促進する。

(具体的な事業)

事業名	内容
ヘルスケア産業創出・育成事業	ヘルスケア産業分野における創業・商品開発支援

③拠点性を活かした企業と人の集積

中四国の交通結節点としての利便性や自然災害の少なさなど、本市の優位性を活かし、企業立地及びUIJターンをはじめ首都圏等からの人材の移転を促進するとともに、本社機能の強化等により新たな雇用を創出する。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
企業立地件数	—	5年間で33件
新規常用雇用者数	—	5年間で250人
市内就業者数【再掲】	365,414人(H24)	373,000人

(具体的な事業)

事業名	内容
企業立地推進事業	工場、本社・中四国支店・本社機能等の企業立地の取組
空港南産業団地整備事業	県と共同で企業誘致の受け皿として産業団地を整備
雇用対策等事業	UIJターン合同企業説明会の開催

(2) 歴史・文化資源等を活かした観光誘客の促進

①観光の振興と情報発信力の強化

岡山城と岡山後楽園との連携等により、既存の観光資源の魅力向上を図るとともに、近隣自治体とも連携し、岡山を形作った歴史・文化資源を収集・顕彰することにより、地域のアイデンティティを高め、テーマやストーリー性を重視した新たな情報発信を行うほか、こうした歴史・文化資源の由来を未来に継承するための「岡山歴史のまちしるべ（歴史由来看板）」を整備する。また、岡山市の都市イメージとして定着している「桃太郎」をテーマにまち歩きを楽しめる素材を創造・発信し、観光客が楽しめる魅力ある観光地づくりを進める。

さらに、広域観光の宿泊地としての利便性を活かし、宿泊・滞在客の増加につなげる。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
観光客入込客数	583.7万人(H26)	604万人
実宿泊者数	115.9万人(H26)	121万人
岡山歴史のまちしるべ設置数	—	80か所

(具体的な事業)

事業名	内容
おかやま観光情報発信事業	連携中枢都市圏における歴史・文化資源の発掘・発信、「桃太郎」をテーマにしたまち歩きを楽しめる素材や健康な食事の創造・発信等
観光施設整備事業	岡山城の魅力アップ等
観光宣伝事業	岡山後楽園・岡山城の連携等
岡山まつり開催事業	おかやま桃太郎まつりの開催等
中心市街地活性化事務費	歴史由来等まちの歴史説明看板の設置

②外国人観光客誘客と受け入れ体制の整備

東アジアからの団体旅行客に加え、近年、フランスなど欧米からの個人観光客が増加している状況を踏まえ、これらを新たなターゲットとし、外国人観光客の更なる誘客を図るとともに、観光案内看板の多言語化や、観光案内所における個人観光客への対応強化を行うなど、受け入れ体制の充実に取り組む。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
外国人観光客宿泊者数	38,301人(H26)	46,000人

(具体的な事業)

事業名	内容
おかやま観光情報発信事業	海外プロモーション等
国際観光振興事業	多言語パンフレットの作成等

③コンベンション誘致の推進

岡山市、おかやま観光コンベンション協会、岡山コンベンションセンターを中心に、連携・協力協定を締結した岡山大学や岡山商工会議所等産官学が連携し、地元でのMICE開催を促進するとともに、「ESDに関するユネスコ世界会議」を開催した経験を活かして、国際会議の積極的な誘致に取り組み、地域経済の活性化のみならず、都市ブランドの向上や国際化を推進する。

※MICE：Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive tour（報奨・招待旅行）、Convention 又は Conference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）

重要業績指標(KPI) (例)	基準値	最終目標値(H31)
コンベンション参加者数	166,968人(H26)	173,000人
国際会議開催件数	37件(H26)	44件

(具体的な事業)

事業名	内容
コンベンション誘致対策事業	コンベンションの誘致・開催支援等

④「(仮称)岡山国際現代芸術祭」の開催

岡山城周辺の歴史文化ゾーンを主会場に、世界的に評価の高い作品を集めた「(仮称)岡山国際現代芸術祭」を開催し、国内外から多くの観光客を呼び込み、地域の観光誘客と消費額の増加などにつなげる。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
(仮称)岡山国際現代芸術祭来場者数	117,000人(H26)	未定

(具体的な事業)

事業名	内容
芸術文化まちづくり推進事業	(仮称)岡山国際現代芸術祭の開催推進

⑤「おかやまマラソン」の開催

新たな地域イベントとして「おかやまマラソン」を開催し、参加者、ボランティアと観光客による地域の活力を生み出し、市民の地域に対する誇りを醸成するとともに、交流人口や滞在時間の増加による経済効果の創出を図る。

(具体的な事業)

事業名	内容
生涯スポーツ振興事業	おかやまマラソンの開催

(3) 活力ある農業の振興

①新たな担い手の確保・育成

岡山市内外からの新規就農希望者に対し、就農に関する相談・準備や就農資金等への適切な支援を行い、将来の農業の担い手を確保・育成するとともに、経営規模の拡大や販路の開拓・拡大などを通じて経営力の向上を図る。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
新規就農者数	22人(H26)	毎年40人
担い手への農地集積率	22.7%(H26)	35%

(具体的な事業)

事業名	内容
担い手育成対策事業	移住・定住者の新規就農促進、若手農業者モデル経営体の登録、担い手への規模拡大奨励金等
岡山ブランド農産物育成事業	アグリフード出展支援等

②地産地消の推進と農村コミュニティの再生・強化

農業者と商工業者が連携した市民向けイベントの開催等地産地消の取組により、地域の高品質な農産物に対する市民や市内事業者の購買意欲を高め、販路の開拓・拡大につなげる。また、水路の泥上げ等の地域活動を通じて農村コミュニティの再生・強化を図り、地域の活性化につなげる。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
岡山産の野菜・果物の購入を意識している市民の割合	56.4%(H27)	65%
多面的機能制度取組面積	1,505ha(H26)	6,000ha

(具体的な事業)

事業名	内容
地産地消推進事業	おかやまマルシェ(仮称)の開催等
多面的機能支払交付金事業	水路の泥上げ等の地域活動に対する支援、地域おこし協力隊の活用検討等

(4) 地域の活力を担う人材の育成・確保

①多様な人材が活躍できる環境づくり

女性をはじめ、高齢者・障害者など、多様な人材がその能力を発揮することで、多様な視点が反映され、地域の活力を生み出すことにつながる。具体的には、女性や高齢者、障害者など多様な人材が働きやすい職場づくりや、就労に必要な知識及び能力向上に必要な講座・訓練の提供などにより、地域における多様な人材の活躍拡大を目指す。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
就労につながった人数	—	毎年5人
岡山市役所の管理職に占める女性の割合	6.5%(H26)	13%(H32)

(具体的な事業)

事業名	内容
生涯現役社会づくりの推進	生涯現役応援センターの設置等
発達障害者支援センター事業	発達障害のある方の社会参加プログラムを実施
女性が輝くまちづくり事業	市内企業における女性の活躍や働きやすい職場づくりを市HPで紹介
	市内企業で働く女性が管理職を目指すために必要なスキル等の学習や異業種交流などの講座を実施

②グローバル人材の育成

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、国が示した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」に基づき、岡山市の子どもたちが世界で幅広く使われている英語を聞き、話す力を身に付けるなど、グローバル化に対応した、地域を担う人材を育てる。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
生徒の英語力(中学校3年生)実施状況調査で英検3級以上相当の英語力を有すると思われる生徒数の割合	29.2%(H26)	60%

(具体的な事業)

事業名	内容
英語教育推進事業	グローバル化に対応する人材育成

基本目標 2 岡山市への新しいひとの流れをつくる

【数値目標】

■ 転入超過者数 700 人 (H26) → 1,000 人 (H31)

基本的方向

(1) 移住・定住の促進

移住希望者の視点に立ち、雇用や住まい、教育等の移住に関する様々な相談に対応するため、民間の移住支援団体等とも連携・協力するなど、ワンストップで対応・サポートを行い、岡山市への移住・定住の促進に積極的に取り組む。

(2) 「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）構想」の推進

国で検討されている「生涯活躍のまち（日本版 CCRC）構想」に呼応し、東京圏等の地方移住を希望する高齢者に対して、岡山市が受け皿となる総合的な環境について、国の動向を注視しながら様々な角度から課題等を整理し、移住・定住に関する新たな取組の方向性として検討する。

(3) 地元大学等との連携

岡山市に立地する大学等との連携により、学生が市内企業で活躍できるよう取り組むとともに、産官学が連携した地域活性化の取組を進める。

具体的な施策と重要業績指標（KPI）

(1) 移住・定住の促進

① 相談窓口の設置

「安全・安心で暮らしやすい都市」として岡山市の認知度が全国的に高まる中、岡山市への移住・定住希望者からの相談が増加していることから、岡山市への移住・定住に関してワンストップで相談できる窓口を新たに東京へ設置し、仕事や住居など移住・定住希望者のニーズに幅広く対応することで、より積極的に「ひと」を呼び込む。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
サテライト移住相談窓口相談件数	—	375人

(具体的な事業)

事業名	内容
移住定住促進事業	移住・定住に関する総合的な支援
	サテライト移住相談窓口を東京に新設

②UIJターン支援

主に首都圏に就学した学生を対象に、市内中小企業等の情報を積極的に発信するとともに、中小企業等による合同企業説明会を開催し、市内企業への就職機会を提供する。

また、岡山市へUIJターンにより移住し、専業農家だけでなく兼業農家として新たに園芸農業を始める方等に対しても支援する。

さらに、就職にあたり東京圏から市内企業の面接を受ける際の交通費を助成するとともに、岡山市へ移住・定住を希望する方へ一時的な住居を用意し、移住・定住の足掛かりとなる支援を充実させ、地域の新たな担い手を増やす。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
市内就業者数【再掲】	365,414人(H24)	373,000人

(具体的な事業)

事業名	内容
雇用対策等事業	UIJターン合同企業説明会の開催
担い手育成対策事業	移住・定住者の新規就農促進
移住定住促進事業	東京圏から市内企業の面接に来る際に要する交通費の一部を助成
	定住準備のための住まい(お試し住宅)の提供

③政府関係機関の誘致促進

東京の一極集中を是正するため、東京都にある政府関係機関及びすべての研究機関・研修所について地方移転が検討されていることから、岡山市においても、「独立行政法人 情報処理推進機構」と「独立行政法人 理化学研究所バイオリソースセンターサブバンク施設」の2施設の誘致を提案し、関連分野の研究力・産業力の強化を通じた地域の発展につなげていく。

(2) 「生涯活躍のまち(日本版CCRC)構想」の推進

①東京圏をはじめ大都市の高齢者の地方移住支援の推進

「安心して医療・介護が受けられる都市」としての高い評価がなされていることも踏まえ、希望する高齢者の受入れについて、様々な角度から課題等を整理・検討する。

(具体的な事業)

事業名	内容
生涯活躍のまち構想推進事業(仮称)	生涯活躍のまち(日本版CCRC)構想に係る検討

※CCRC【Continuing Care Retirement Community】：高齢者が自立して生活できるうちに入居して、社会活動に参加し、介護が必要になった場合も医療を受けながら暮らし続ける仕組み

(3) 地元大学等との連携

①大学等との連携による人材確保

岡山市の産業発展のためには企業の求める人材確保は重要であり、市内に多く立地する大学等や企業と連携し、大学等を卒業する学生が市内企業で活躍できるよう、企業とのマッチングに取り組む。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
市内就業者数【再掲】	365,414人(H24)	373,000人

(具体的な事業)

事業名	内容
雇用対策等事業	新規学卒者等合同企業説明会、求人・企業情報の大学等への提供

②大学等との連携による地域活性化

大学等の高等教育機関は、まちづくりの課題に関する研究・教育、まちづくりを支える人材育成、都市の賑わい・活力の源泉である学生の存在とそのエネルギーなど、地域にとって多面的な存在価値があることを踏まえ、大学等の高等教育機関の知の集積や大学生などの活力を活かして地域の様々な課題の解決が図られるよう、地元の大学等との連携を積極的に推し進める。

基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【数値目標】

- 子育て支援・児童福祉施策の満足度 16.7% (H27) → 30% (H31)
- 保育所等への入所希望者（潜在ニーズを含む見込み）に対する入所出来た児童の割合 88.5% (H27) → 100% (H31)
- 放課後児童クラブの入所希望児童（潜在ニーズを含む見込み）に対する入所出来た児童の割合 87.7% (H27) → 100% (H31)

基本的方向

(1) 保育所・放課後児童クラブへの入所待機児童の解消

毎年、保育所の創設・増設等による定員追加を上回るペースで入所希望者が増加している状況において、入所待機児童が生じていることから、早期に入所出来るよう努める。

さらに、潜在的に保育を希望する場合も含めて、入所を希望する児童全員が入所出来るよう、「子ども・子育て支援事業計画」に沿って、保育所や幼保連携型認定こども園の整備、小規模保育事業の導入、公立施設の民営化を図るなど、今後5年間で保育サービスの受け皿を確保し、働きながら安心して子育てが出来る環境の整備を積極的に推進する。

また、共働き家庭の増加に加え、対象児童が小学校6年生まで拡大されたこともあり、小学生を放課後に預かる放課後児童クラブが不足していることから、必要な施設の整備を早急に進め、環境の整備を積極的に推進する。

(2) 結婚・出産・子育て支援

若い世代が子育てに希望が持てるまちの実現を目指し、市民、企業、地域団体、行政など社会全体が協力し合い、子育ての負担感や不安の軽減を図るための実情に応じた取組を推進する。

また、出生率の向上に向け、20～30歳代の若者・子育て世代をターゲットに、「結婚、妊娠、出産、子育て」と続くライフステージに対し、切れ目のない様々な施策を推進する。

(3) ワーク・ライフ・バランスと女性の活躍推進

勤労者世帯の約半数が共働き世帯になるなど、人々の生き方が多様化して

いるが、男性は仕事、女性は家庭という固定的な性別役割分担意識は今なお残っている。

こうした中、女性は仕事と家庭生活との両立への困難さを感じており、従来からの長時間労働を前提とした労働慣行を改め、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進し、女性も男性も働きやすい社会を実現し、女性の活躍を推進する。

具体的な施策と重要業績指標（KPI）

（１）保育所・放課後児童クラブへの入所待機児童の解消

①幼保連携型認定こども園等の整備を推進

岡山市では毎年のように保育所の創設・増設等により定員を増やしているものの、現状はそれを上回るペースで入所希望者が増加し、平成 27 年 4 月には 134 人もの待機児童が生じ、また、希望しても入所できない児童が 800 人以上も見込まれるなど、保育ニーズにはまだ十分に対応できていない状況にある。

そのため、平成 27 年度から、「子ども・子育て支援事業計画」を策定し、保育所や幼保連携型認定こども園の整備、小規模保育事業の導入、公立施設の民営化を図るなど、今後 5 年間で保育サービスの受け皿を確保し、働きながら安心して子育てができる環境の整備を積極的に進める。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
保育所等の待機児童数	134 人(H27.4)	0 人
市立幼保連携型認定こども園移行数	—	30 園
私立認定こども園移行数	1 園(H27.4)	28 園
地域型保育事業利用者数	0 人(H27.4)	1,251 人
幼稚園教諭免許・保育士資格未取得者数	—	0 人
潜在保育士登録者数	129 人(H27.4)	毎年 100 人

（具体的な事業）

事業名	内容
子ども・子育て推進事業費	最適化に向けた施設整備・幼保一体化の推進事業
私立認定こども園特別補助事業・私立幼稚園特別補助事業	私立認定こども園運営に対する補助事業

保育園指導事務費	免許資格取得支援事業
児童福祉行政事務費	保育士・保育所支援センター事業

②放課後児童クラブの整備を推進

共働き家庭の増加に加え、制度が拡大され対象児童が小学校6年生までになったこともあり、放課後に小学生を預かる放課後児童クラブ施設が不足している。

このような状況を解消するために、必要な施設の整備を早急に進め、子育てしながら安心して働ける環境の整備を積極的に推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
施設確保が必要な児童クラブ数(1.65㎡未満/人)	49施設(H27.4)	0施設

(具体的な事業)

事業名	内容
放課後児童健全育成事業	放課後児童クラブの整備等

(2) 結婚・出産・子育て支援

①出会いの場の環境づくり

希望する誰もが、安心して希望の時期に結婚できるよう、独身の男女の出会いのきっかけづくりや情報提供などの支援を進める。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
出会いのひろば事業参加者のうち結婚報告数	10件(H26)	延べ15件

(具体的な事業)

事業名	内容
こども企画行政事務費	出会いのひろば事業

②妊娠・出産・子育てのための支援

市民が安心して妊娠・出産できるよう、妊婦健康診査、乳児家庭全戸訪問、子育てに意欲のある高齢者による産前産後の家事応援などの妊産婦・乳幼児に関する保健の充実や、不妊に悩む方に対する支援など、妊娠・出産のための支

援を進める。

また、出産や子育てなどの様々な悩みや課題について身近で相談できる環境を整えるなど、子育ての負担感や不安の軽減を図るための実情に応じた様々な施策を推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
シルバー世代産前産後応援事業利用登録者数	80人(H26)	105人
ファミリーサポート事業活動件数	8,959件(H26)	10,000件
心豊かな岡山っ子応援団賛助団員数	9団体(H26)	60団体
プレーパーク開所箇所数	常設1か所(H26)	常設1か所 臨時8か所
子育て応援サイト(こそだてぼけっと)年間アクセス件数	1,131,185件(H26)	1,200,000件
保育環境整備事業(保育園文書・用品等集配業務)保護者相談・支援対応の実施回数	—	1,200回

(具体的な事業)

事業名	内容
児童福祉行政事務費	シルバー世代産前産後応援事業
ファミリーサポート事業費	会員の相互援助により仕事と育児を両立し、安心して子育てできる環境づくりをめざす
地域子育て支援行政事務費	心豊かな岡山っ子応援団事業
	プレーパーク普及事業
	子育て応援サイト運営事業
子育て世代包括支援センターの整備	妊娠・出産・育児・乳幼児期を通して一貫した切れ目ない支援を行う
保育園運営費	保育環境整備事業
	保育園防災機能強化事業

(3) ワーク・ライフ・バランスと女性の活躍推進

①ワーク・ライフ・バランスの推進

男性の働き方や意識の改革を進めるため、企業の男性管理職を対象としたセミナーを開催するなど、経営戦略としてのワーク・ライフ・バランスの推進を働きかけ、男性の育児、家事への参加を促し、女性の活躍を推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
男性管理職向けセミナーの受講者数	—	毎年 100 人
男性も女性も仕事と家庭を両立できるのがよいと考える市民の割合	82.4%(H27)	85%

(具体的な事業)

事業名	内容
女性が輝くまちづくり事業	経営者や管理職を対象にした「仕事と生活の調和」に関する意識改革セミナーを開催
	職場で男女共同参画に積極的に取り組む企業を認証
地域子育て支援行政事務費	子育てパパ・プレパパ応援事業

②一人ひとりの状況や希望に応じた女性への就労支援

結婚や出産などライフステージの変化等により離職した女性も含め、希望する形態での就労に結び付くように、情報提供や知識やスキルの向上を目的とした講座の開催など、一人ひとりの状況や希望に応じたきめ細かな支援を行う。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
再就職支援講座受講者のうち、就職に向けて活動した人の割合(受講後半年時点)	79.0%(H26)	毎年 80%

(具体的な事業)

事業名	内容
女性が輝くまちづくり事業	女性のスキルアップ講座の開催や情報提供による再就職支援
雇用対策等事業	おかやまマザーズハローワーク等と共同でふれあいセンターにて就職相談を実施

基本目標4 安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する

【数値目標】

- 岡山市に住み続けたいと考える市民の割合 79.2%(H27) → 85%(H31)
- 安全・安心な地域社会と感ずる市民の割合 82.0%(H27) → 86%(H31)
- 健康寿命の延伸
男性 69.0歳 女性 72.7歳 (H22) → 男性 71.0歳 女性 75.0歳 (H32)

基本的方向

(1) コンパクトでネットワーク化された活力あふれるまちづくり

都心に高度都市機能が集積し、それぞれの地域が多様性を発揮しながら、公共交通等で相互に結ばれた、「コンパクト+ネットワーク」のまちづくりを推進する。

中心市街地には、広域商業・コンベンションなど多様な都市機能のほか、岡山城・岡山後楽園を含む歴史・文化ゾーンや西川緑道公園などの魅力的な空間があることから、回遊性の向上やこれらを活かしたまちの賑いづくりに取り組む。

(2) 地域連携の推進

周辺地域の中山間地などの集落では、人口減少や高齢化が進む中、買い物や医療・福祉等の複数の生活支援サービスを一定のエリア内で受けられるよう、各集落との交通手段を確保することにより、地域の再生を目指す取組を推進する。

岡山市の拠点性を活かした関係市町との広域連携の取組を進める。

(3) 健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源を生かした地域づくり

生涯にわたり健康でいきいきと生活できるよう健康寿命の延伸を図るとともに、岡山市の豊富な医療・介護資源を生かし、在宅医療・介護の推進や認知症施策をはじめ、ボランティア、NPO法人、民間企業等の多様な事業主体による介護予防や生活支援の充実等を行い、医療や介護が必要になっても誰もが住み慣れた地域で最期まで暮らし続けられる社会を目指す。

(4) 安心に暮らせる地域づくり

住みやすい魅力ある岡山市とするため、警察をはじめ関係機関・団体と連

携を強化し、犯罪や交通事故の少ない安全・安心な地域づくりを推進する。

(5) 地域の課題解決のための持続可能な取組

地域住民組織、NPO法人、事業者、学校・大学、行政等多様な主体による協働を促進し、地域の課題解決を進め、持続可能な地域づくりを促進する。

また、持続可能な地域づくりに向け、自ら考え、行動できる人材を育成・確保する取組や環境保全活動を推進する。

具体的な施策と重要業績指標（KPI）

(1) コンパクトでネットワーク化された活力あふれるまちづくり

① 計画的なまちづくりの推進

人口減少下においても活力あるまちづくりを進めるためには、これまでの自動車に過度に依存した低密度で拡散した都市を見直し、居住と医療・福祉・商業等の都市機能の緩やかな集約誘導や空き家対策など有効な土地利用を促し、公共交通施策等と連携して、公共交通を利用して歩いて暮らせるコンパクトな都市の実現を目指す。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
人口集中地区(DID)人口密度	59人/ha(H22)	60人/ha(H32)
基幹の公共交通路線の徒歩圏人口	365千人(H22)	370千人(H32)
快適でにぎわいのある都市づくりの満足度	20.4%(H27)	23%

(具体的な事業)

事業名	内容
立地適正化計画策定事業	公共交通を利用して歩いて暮らせるコンパクトな都市の推進
岡山市空き家適正管理支援事業	空き家診断・リフォーム・除却への助成

② 公共交通の維持・確保

人口減少の進行に伴い既存の鉄道やバス路線も縮小・廃止となる恐れがあることから、公共交通の利便性を高めることで利用者の減少に歯止めをかけて、必要な公共交通の存続を図る。

また、公共交通の利用が不便な地域においては、地域住民と協働で持続可能

な生活交通の導入を目指すとともに、生活交通に必要な道路の整備を行う。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
主要路線バス利用者数(一日あたり)	30,700 人(H25)	30,700 人

(具体的な事業)

事業名	内容
新たな公共交通の確保事業	公共交通不便地域へ新たな生活交通を整備
モビリティマネジメントによる公共交通利用促進事業	小学生を対象にしたバスの乗り方教室の開催等

③商店街の賑わい創出

商店街イベントの実施や顧客誘致につながる情報の発信等に加え、各商店街のもつ特徴を活かすとともに、不動産を有効に活用することにより新たな消費ニーズを喚起していく。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
商店街歩行者通行量(休日)【再掲】	5,283 人(H26)	5,700 人
商店街歩行者通行量(平日)【再掲】	4,113 人(H26)	4,400 人

(具体的な事業)

事業名	内容
商店街振興事業	商店街のイベント開催支援、情報発信支援
商業振興事業	商店街の空き店舗対策、商店街のやる気の後押し事業等

④都心創生まちづくり

岡山市のシンボルである岡山城の主要部に位置する旧内山下小学校跡地に、都心の賑いとなるイベント等を開催するなど、岡山城に相応しい空間づくりを進め、歴史ある都市としての風格と魅力を高めることで更なる観光客の誘客につなげ、都心の新たな賑いの創出を推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
歴史・文化ゾーン来訪者数	2,818 千人(H25)	3,100 千人
旧内山下小学校年間訪問者数	13,000 人(H26)	15,000 人

(具体的な事業)

事業名	内容
都心創生まちづくり構想推進事業	岡山城周辺の新たな魅力と賑い創出

⑤文化芸術施設を拠点とした文化振興やトップスポーツによる活力の創出

岡山シンフォニーホールを音楽主体の文化芸術活動拠点として発信し、岡山フィルハーモニック管弦楽団が地域文化の担い手として躍進することにより、岡山のイメージを高め、さらに人を引き寄せるまちを目指す。

また、中心市街地の文化施設や公園・街角等を利用した多彩な文化芸術事業を開催し、誰もが気軽に文化芸術を楽しめる機会を増やし、中心市街地の活性化を図る。

さらに、「ファジアーノ岡山」や「岡山シーガルズ」のトップチームが全国区で活躍することにより県内外から多くの人を呼び込み、交流人口の増大と地域経済効果の拡大を図る。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
岡山フィルハーモニック管弦楽団演奏会の鑑賞者数	46,620人(H26)	50,000人
ファジアーノ岡山のホームで開催される試合の平均入場者数	8,404人(H26)	12,000人
岡山シーガルズのホームで開催される試合の平均入場者数	3,397人(H26)	4,000人

(具体的な事業)

事業名	内容
文化のまちづくり推進事業	多様な文化芸術の鑑賞機会の提供
芸術文化まちづくり推進事業【再掲】	(仮称)岡山国際現代芸術祭の開催推進
競技スポーツ振興事業	トップチームの活用及び支援

(2) 地域連携の推進

①「小さな拠点づくり」の推進

日常生活に必要なサービスや地域活動を集めた「小さな拠点」を整備するとともに、各集落を交通手段で結ぶことにより、各種生活サービスや地域活動をつなぎ、集落地域の暮らしの安心を守るべく、地域の実情に合った新たな集落の再生を目指す取組を進める。

(具体的な事業)

事業名	内容
中山間・周辺地域活性化検討事業(仮称)	集落の課題解決に向けた支援等の検討
新たな公共交通の確保事業【再掲】	公共交通不便地域へ新たな生活交通を整備

②地域おこし協力隊の活用による地域活性化

中山間地域においては、急激な少子高齢化や人口流出による担い手・後継者不足により、集落機能の低下や農林業等の産業の停滞が進む中、「地域おこし協力隊」と地域住民が協働し、地域課題の解決や地域づくりのための諸事業を推進するなど、いきいきとした中山間地域のふるさとづくりを目指す。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
地域おこし協力隊導入数	—	10人

(具体的な事業)

事業名	内容
中山間地域における地域住民活動応援事業	地域おこし協力隊事業(御津・建部地域のふるさとづくりを推進)

③連携中枢都市圏構想の推進

岡山市を中心都市とする連携中枢都市圏の構成市町(8市5町)の首長からなる「岡山都市圏連携協議会」を設立したところであり、引き続き、圏域市町との連携協議を進め、平成28年度における連携協約の締結と「連携中枢都市圏ビジョン」の策定を目指し、これに基づき産業、観光、交通分野等の施策を広域的に展開していく。

(3) 健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源を生かした地域づくり

①生涯にわたり健康でいきいきと生活できるまちづくり

健康ポイント事業の実施や、健康寿命延伸施策を愛育・栄養委員をはじめとしたヘルスボランティアや企業等と連携しながら実施することにより、地域での健康づくりを推進し、市民の健康寿命の延伸を図る。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
健康寿命の延伸【再掲】	男性 69.0 歳 女性 72.7 歳 (H22)	男性 71.0 歳 女性 75.0 歳 (H32)

(具体的な事業)

事業名	内容
健康寿命延伸施策の推進	地域ウォーキングマップ(ええとこ発見図)作成事業等

②医療・介護の強みを生かした地域包括ケアシステムの構築

岡山市の豊富な医療・介護資源を生かし、在宅医療・介護の推進や認知症施策をはじめ、ボランティア、NPO法人、民間企業等の多様な事業主体による介護予防や生活支援の充実等を行い、医療や介護が必要になっても誰もが住み慣れた地域で最期まで暮らし続けられる社会を目指す。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
かかりつけ医がいる市民(60歳代～80歳代)の割合	63%(H24)	70%

(具体的な事業)

事業名	内容
在宅医療・介護の推進	地域ケア総合推進センターによる在宅医療介護推進事業(人材育成、多職種連携、普及啓発)
岡山市版オレンジプランの推進	認知症の人や家族のサポート事業等
多様な主体による介護予防・生活支援サービスの推進	新しい地域支援事業等
高齢者向け地域優良賃貸住宅(サービス付き)整備事業	高齢者向けの良質な住宅の供給ストックの底上げと安全安心な住宅の提供

(4) 安心に暮らせる地域づくり

①市民生活の安全・安心の確保

市民の安全で安心な生活を守るため、犯罪や交通事故の少ない地域づくりを推進するとともに、災害に強い都市基盤の整備や災害時における総合的な防災協力体制づくりを推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
刑法犯認知件数	8,420 件(H26)	6,000 件
自転車の関係する人身交通事故件数	1,110 件(H26)	650 件
自主防災組織率	60.6%(H26)	70%

(具体的な事業)

事業名	内容
交通安全対策事業・安全安心まちづくり事業	自転車の盗難防止対策と自転車交通事故防止対策の推進、青少年の非行防止対策の推進、高齢者の犯罪被害防止・安全確保の強化、地域防犯活動団体の活性化
自主防災会育成事業	防災資機材給付や地域防災マップの作成、防災まちづくり学校や公民館職員等防災講習会の開催等

②公共施設の最適化

人口減少に合わせて施設保有量を最適化し、将来に継承可能な施設保有とするとともに、ニーズの変化に対応した市民サービスの提供や、効果的で効率的な施設運営を行い、公共施設保有の最適化を図る。

また、公共施設の計画的な保全の実施により、維持管理のさらなる効率化や更新費用の低減を行うなど施設の長寿命化を図り、持続可能な市民サービスの提供を続けるための取組を進める。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
最適化目標(施設類型毎)とする総延床面積	1,941,371.28 ㎡ (ハコモノ)(H26)	—

(具体的な事業)

事業名	内容
公共施設等マネジメント推進事業	公共施設等のマネジメント及び固定資産台帳整備

(5) 地域の課題解決のための持続可能な取組

①地域の課題を地域で解決する課題解決型の活動と組織づくり

安全・安心ネットワークをはじめ、地域の課題は地域で解決する課題解決型の地域活動とそれを担う組織づくりを進める。

また、特に、若者世代の地域活動への参画を促進し、企業、NPO法人、大学・学校、行政等、多様な主体が地域活動の当事者として協働で課題解決に取り組む地域づくりを進める。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
地域活動への参加割合(そのうち20歳代の参加割合)	39.9%(17.9%)(H27)	50%(30%)
企業・NPO法人等が参加した安全・安心ネットワーク数	17学区・地区(H26)	47学区・地区

(具体的な事業)

事業名	内容
まちづくり推進事業	学区・地区単位で実施する地域活動への補助(区づくり推進事業)
協働のまちづくり推進事業	地域課題解決に取り組む地域活動への支援等(ESD・市民協働推進事業)

②ESDの推進による地域づくり・人づくり

地球規模で総合的に物事を考え、地域等の抱える課題解決に向けて学び合い、考え、行動できる、将来の地域の核となる若い人材を育成・確保する取組を学校と地域が一体となって進める。

また、地域の課題解決の取組にESDの視点を組み込むことにより、生物多様性の保全に関する枠組みづくりとそれを支える地域の担い手づくりを進める。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
ESD学生インターンシップの社会貢献活動への参加割合	—	50%
ESDインターンシップ協力校	—	10校
生物多様性保全に取り組む企業数	2団体(H26)	15団体

(具体的な事業)

事業名	内容
ESD推進事業	ESD推進による持続可能な社会づくり担い手育成及び地域の受け皿発掘事業
(仮称)いきものいろいろ交流プロジェクト事業	多様な生物が住む環境を将来にわたり保全する地域の担い手を育成

③省エネルギー行動の普及による環境保全活動の推進

地球温暖化防止や電力需給の安定化に向けて、CO₂排出削減などの環境負荷の少ない事業活動の普及を図り、持続可能なまちづくりを推進する。

重要業績指標(KPI)	基準値	最終目標値(H31)
省エネルギー診断や設備更新等によるCO ₂ 排出削減効果(年間)	—	1,125t-CO ₂

(具体的な事業)

事業名	内容
事業所向け省エネルギー診断及び設備更新等補助事業	省エネルギー診断や設備更新等への補助を通じて、企業の環境保全活動を促進

Ⅲ 総合戦略の推進体制

1 推進体制の確立

本総合戦略に位置づけた取組を着実に推進するために、市長を本部長とする庁内検討組織である「岡山市まち・ひと・しごと創生本部会議」を中心に取組を進めるとともに、住民代表や産官学金労言などで構成する推進組織である「岡山市まち・ひと・しごと創生市民会議」において、適宜意見を聴取しながら総合戦略の取組を推進する。

2 PDCAサイクルによる施策の推進と検証

本総合戦略では5年間の取組に対する各政策分野の基本目標に係る数値目標を設定するとともに、それぞれの具体的な施策については重要業績評価指標（KPI）を設定し、検証・改善を図る仕組みとしてPDCAサイクルを運用する。

また、「岡山市まち・ひと・しごと創生本部会議」や「岡山市まち・ひと・しごと創生市民会議」による検証も実施しながら、必要に応じて施策や事業の追加、見直し等を行い、本総合戦略の改訂を行っていく。

基本的な考え方

- 「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国・県の総合戦略、岡山市人口ビジョン及び課題等を勘案して策定
- 新型交付金等の新たな財源を活用し、総合戦略に盛り込んだ取組を積極的に推進
- 計画期間：H27年度からH31年度までの5年間
- 進行管理：数値目標及び重要業績指標(KPI)を設定し、その達成状況を毎年評価、必要に応じて改定(PDCA)

地方創生の取組の考え方

【人口減少問題への対応】

- ・人口減少期に突入、中長期的な生産年齢人口の減少
- ・人口の東京一極集中など地域的な偏在、東京圏等への人口流出の歯止め

【岡山市の人口は将来減少する見込み】

<岡山市人口ビジョン>

- ・現状で推移すれば、2060年には61万2千人程度となる見込み(基本推計)
- ・国想定出生率が達成された場合、2025年の72万人程度をピークに人口減少期に入り、2060年には69万2千人程度となる見込み(将来展望推計)

【岡山市の強みと特長を活かす(着眼点)】

- ・中四国の交通結節点、高い都市機能集積
- ・安全・安心の生活環境
- ・医療・福祉資源の集積
- ・岡山固有のテーマ性の高い歴史・文化資源等の保有
- ・第3次産業中心の産業構造
- ・活発な地域活動、ESDの取組

【岡山市の人口減少対策の方向性】

- ①若者等が進学・就職等を契機に東京圏や大阪圏などへ転出する傾向が強い(社会減への対策の必要性)
- ②市民の出産・子育ての希望を実現するなど、出生率を高める必要(自然減への対策の必要性)

将来展望推計人口を展望しつつ、総合戦略を着実に実行することにより、人口減少傾向を抑制し、基本推計人口水準の引き上げを図る(4つの基本目標)

岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案) (概要)②

基本目標

基本目標1

岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する

【数値目標】

- ・市内就業者数
365,414人(H24) → 373,000人(H31)
- ・市内企業等における管理的職業従事者に占める女性の割合
10.7%(H24) → 21%(H34)

基本目標2

岡山市への新しいひとの流れをつくる

【数値目標】

- ・転入超過者数
700人(H26) → 1,000人(H31)

主な取組

■新たな雇用と成長を促す戦略的な産業の振興

- ・ヘルスケア産業の創出・育成等
- ・企業立地の推進(工場・本社機能等の企業立地の取組)
- ・広域商談会の開催、大規模展示会への共同出展支援等による販路開拓支援
- ・創業補助金、起業家塾開催等による創業支援
- ・新規学卒者等合同企業説明会開催等による就職支援

■歴史文化資源等を活かした観光誘客の促進

- ・岡山を形作った光ある歴史・文化資源の発掘・発信
- ・岡山城の魅力アップや岡山後楽園との連携等、まちの歴史説明看板の設置
- ・外国人観光客誘客と受け入れ体制の整備
- ・(仮称)岡山国際現代芸術祭の開催、おかやまマラソンの開催

■活力ある農業の振興

- ・新たな担い手の確保・育成、地産地消の推進と農村コミュニティの再生・強化

■地域の活力を担う人材の育成・確保

- ・生涯現役応援センターの設置等
- ・企業における女性の活躍や働きやすい職場づくりの推進
- ・グローバル人材の育成(英語教育推進)

■移住・定住の促進

- ・サテライト移住相談窓口(東京)の新設、お試し住宅の提供
- ・地元企業へのUIターン就職支援、市内企業の就職面接等旅費の一部補助等

■「生涯活躍のまち(日本版CCRC)」構想の推進

- ・東京圏をはじめ大都市の高齢者の地方移住支援の推進

■地元大学等との連携

- ・地域の様々な課題解決に向けた連携による人材育成

岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案) (概要)③

基本目標3

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【数値目標】

- ・子育て支援・児童福祉施策の満足度
16.7%(H27) → 30%(H31)
- ・保育所等、放課後児童クラブへの入所希望者のうち、実際に入所できた児童の割合
→ 全員入所(100%)を目指す

基本目標4

安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する

【数値目標】

- ・岡山市に住み続けたいと考える市民の割合
79.2%(H27) → 85%(H31)
- ・安全・安心な地域社会と感じる市民の割合
82.0%(H27) → 86%(H31)
- ・健康寿命の延伸
男性69.0歳、女性72.7歳(H22)
→ 男性71.0歳、女性75.0歳(H32)

■保育所・放課後児童クラブへの入所待機児童の解消

- ・保育所や幼保連携型認定こども園の整備、小規模保育事業の導入等
- ・放課後児童クラブの整備を推進

■結婚・出産・子育て支援

- ・シルバー世代産前産後応援事業、子育て応援サイト運営等の地域子育て支援
- ・子育て世代包括支援センターの整備、保育園環境整備等

■ワーク・ライフ・バランスと女性の活躍推進

- ・経営者や管理職を対象とした意識改革セミナー等の開催
- ・女性のスキルアップ講座や情報提供による再就職支援

■コンパクトでネットワーク化された活力あふれるまちづくり

- ・公共交通不便地域への新たな生活交通の整備、モビリティマネジメントによる公共交通の利用促進
- ・商店街の賑わい創出、岡山城周辺の新たな魅力と賑わい創出
- ・文化芸術施設を拠点とした文化振興やトップスポーツによる活力の創出

■地域連携の推進

- ・「小さな拠点づくり」の推進、地域おこし協力隊の活用、連携中枢都市圏構想の推進

■健康寿命の延伸と豊富な医療・介護資源を生かした地域づくり

- ・地域ウォーキングマップ(ええとこ発見図)作成など健康寿命延伸施策の推進
- ・高齢者向け地域優良賃貸住宅(サービス付き)の整備
- ・医療・介護の強みを生かした地域包括ケアシステムの構築

■安心に暮らせる地域づくり

- ・市民生活の安全・安心の確保、公共施設の最適化

■地域の課題解決のための持続可能な取組

- ・課題解決型の活動と組織づくり、ESDの推進による地域づくり・人づくり
- ・省エネルギー行動の普及による環境保全活動の推進

(参考) 新たな総合計画と総合戦略の関連性について

新たな総合計画 体系案

総合戦略 体系

I. 国内外から人を呼び込む魅力と活力あふれる「経済・拠点都市」(仮)

(産業、中心市街地、観光・交流、都市基盤、交通、周辺地域)

II. 未来を生きる豊かな人間性と創造力を育む「文化・教育都市」(仮)

(文化・スポーツ、子育て、教育、女性・若者、参加・協働、ESD)

III. 安全・安心で健やかに暮らし続けることができる「環境・福祉都市」(仮)

(健康・医療・福祉、安全・安心、環境)

(主な対応)

(1) 産業振興

(2) 観光誘客

(3) 農業振興

(4) 地域人材の育成

(1) 移住・定住の促進

(2) 生涯活躍のまち(日本版CCRC)構想

(3) 大学連携

(1) 待機児童の解消

(2) 結婚、出産、子育て

(3) ワークライフバランス

(1) 活力あふれるまちづくり

(2) 地域連携

(3) 健康、医療、介護

(4) 安心な地域づくり

(5) 持続可能な取組

【基本目標1】

岡山市の強みを活かし、安定した雇用と活力を創出する

【基本目標2】

岡山市への新しい人の流れをつくる

【基本目標3】

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

【基本目標4】

安全・安心に暮らせるまちをつくり、地域と地域を連携する